
(2) アンケート調査結果の分析について

① 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

①介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

介護予防・日常圏域ニーズ調査の実施概要

	圏域名	1号 被保険者	調査対象				調査人数				回収数				回収率
			一般	事業	要支援	総数	一般	事業	要支援	総数	一般	事業	要支援	総数	
1	北部・中部	5,860	4,433	127	391	4,951	238	30	30	298	146	25	21	192	64.4%
2	若宮・城東・中川	5,746	4,344	127	364	4,835	233	29	29	291	157	16	17	190	65.3%
3	文京・南部	6,444	5,151	75	300	5,526	262	33	33	328	165	24	22	211	64.3%
4	上川淵・下川淵	10,609	8,652	111	558	9,321	430	54	54	538	303	35	30	368	68.4%
5	芳賀	3,292	2,689	82	103	2,874	134	17	17	168	89	10	9	108	64.3%
6	桂萱	8,397	6,699	106	441	7,246	340	43	43	426	203	33	23	259	60.8%
7	東	7,860	6,421	168	335	6,924	319	40	40	399	214	26	28	268	67.2%
8	元総社・総社・清里	8,783	7,109	110	396	7,615	356	45	45	446	217	28	19	264	59.2%
9	南橘	10,963	8,939	193	469	9,601	444	55	55	554	288	41	40	369	66.6%
10	永明	6,735	5,454	165	285	5,904	273	34	34	341	187	17	16	220	64.5%
11	城南	5,993	4,888	102	237	5,227	243	30	30	303	154	19	22	195	64.4%
12	大胡	4,976	4,101	64	216	4,381	202	25	25	252	125	17	16	158	62.7%
13	宮城	2,648	2,177	26	96	2,299	108	13	13	134	58	6	11	75	56.0%
14	粕川	3,534	2,920	19	138	3,077	144	18	18	180	96	11	12	119	66.1%
15	富士見	6,774	5,666	146	220	6,032	274	34	34	342	158	24	17	199	58.2%
合計	合計	98,614	79,643	1,621	4,549	85,813	4,000	500	500	5,000	2,560	332	303	3,195	63.9%

(対象者)

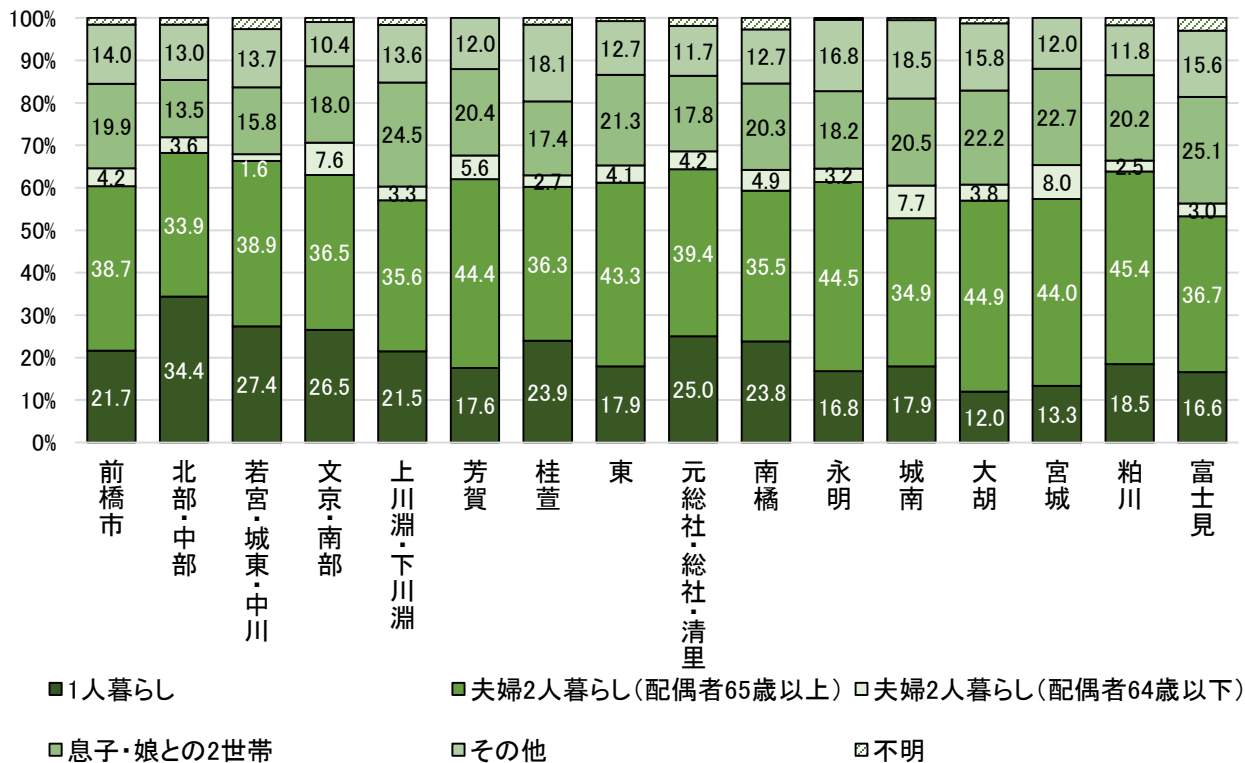
- ・65歳以上の要介護状態になる前の高齢者
- ・事業対象者:基本チェックリストで生活機能の低下が認められた人
- ・要支援者:要支援1・2と認定された人

家族や生活状況について

■ 家族構成

- 市全体では、高齢者のいる世帯のうち、高齢者のみの世帯が60.4%。
- 「北部・中部」ではひとり暮らしの割合が34.4%と最も大きい。
- 「北部・中部」は高齢者のみの世帯も68.3%と最も大きい。
- 「大胡」「宮城」ではひとり暮らしの割合が12.0%、13.3%と小さい。

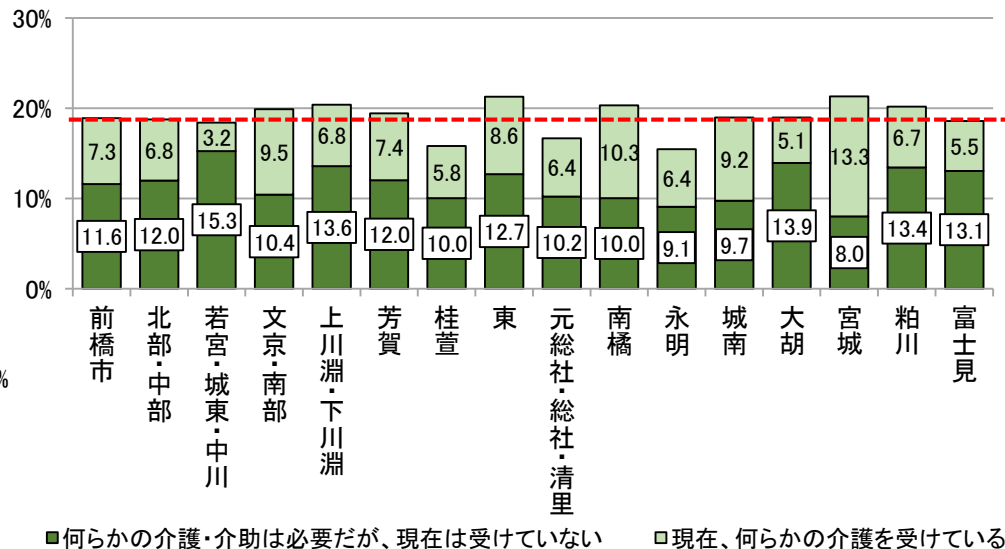
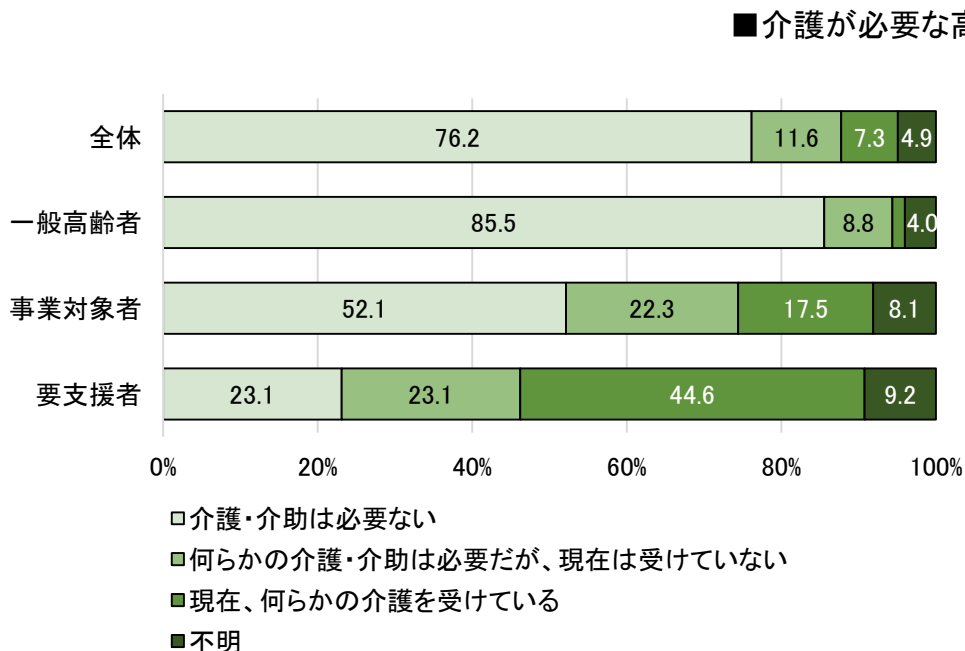
■ 家族構成



家族や生活状況について

■ 介護・介助の必要性

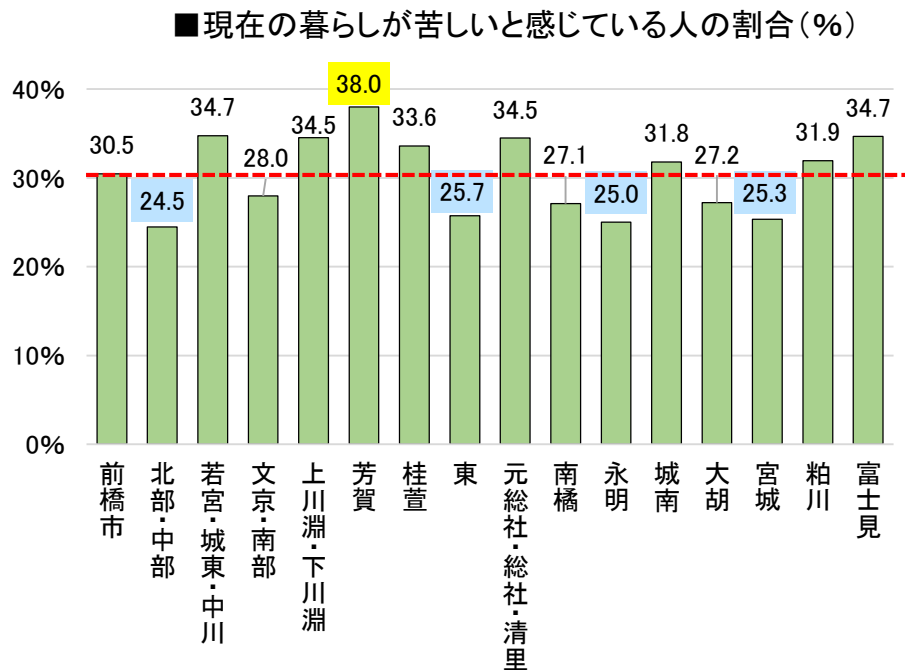
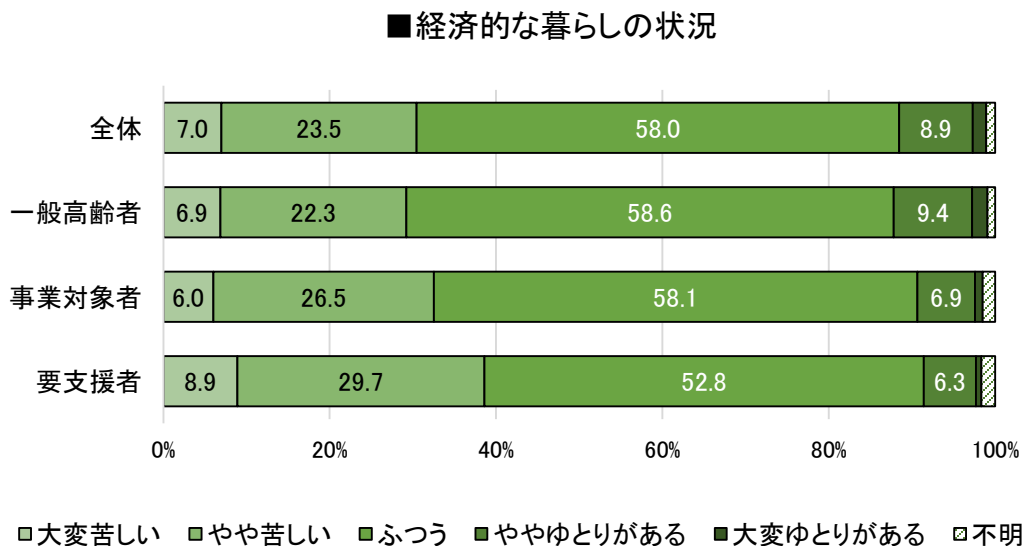
- 全体では、11.6%が何らかの介護・介助が必要だが、現在は受けていない。
- 事業対象者及び要支援者は、それぞれ約20%が何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない。
- 「若宮・城東・中川」では、現在、介護を受けている人の割合が最も少なく、何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない人の割合が最も多い。



家族や生活状況について

■ 経済的な暮らしの状況

- 全体の30.5%は、現在の暮らしが苦しいと感じている。
- 要支援者になると経済的に苦しい人が僅かに増加するが、介護保険の利用状況による大きな差はない。
- 「芳賀」は、現在の暮らしが苦しいと感じている人の割合が38%と多い。
- 「北部・中部」「東」「永明」「宮城」は、暮らしが苦しいと感じている人の割合は少ない。

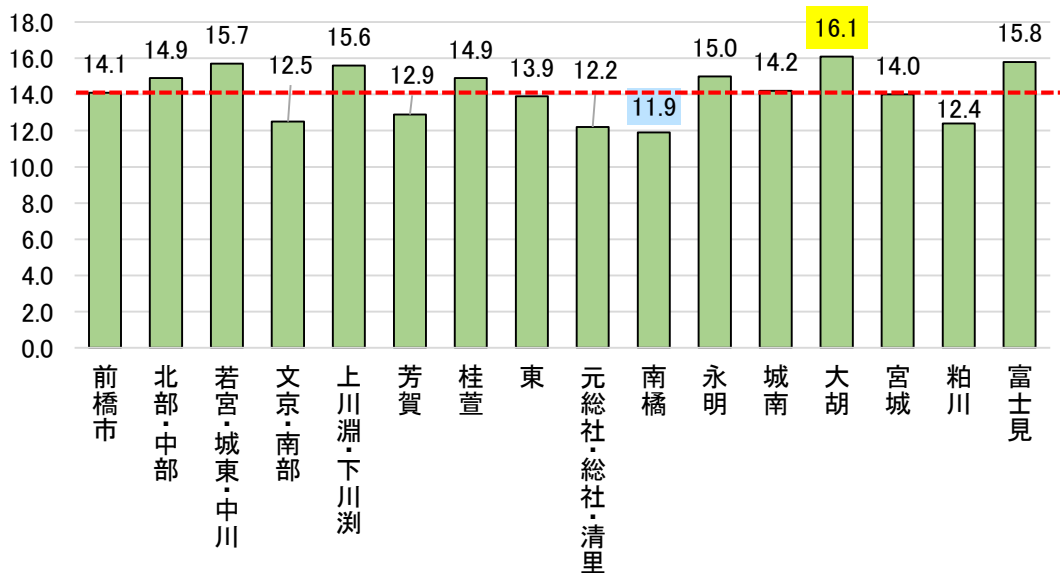


体を動かすことについて

■運動器機能

- 全体の14.1%は、運動器機能が低下してきている。
- 「大胡」は特に運動器機能リスクを抱えている人が多い。
- 「大胡」はグループ活動への参加状況が低く、閉じこもりリスクも高いことから、外出する機会が少ないことが原因の一つに考えられる。

■運動器機能リスクのある高齢者の割合(%)



<運動器機能リスク高齢者の定義>

※6ページの設定問の1から5において、以下の項目を3つ以上選択した回答数から作成。

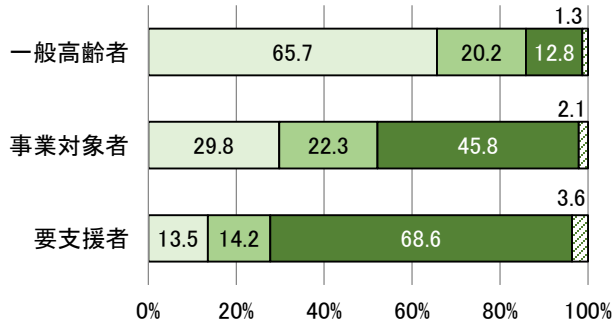
- (1) 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか
「3.できない」
- (2) 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか
「3.できない」
- (3) 15分位続けて歩いていますか
「3.できない」
- (4) 過去1年間に転んだ経験がありますか
「1.何度もある」or「2.1度ある」
- (5) 転倒に対する不安は大きいですか
「1.とても不安である」or「2.やや不安である」

※「見える化」システムより引用

①介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

体を動かすことについて

(1) 階段をすりや壁をつたわずに昇っていますか



(2) 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか



(3) 15分位続けて歩いていますか

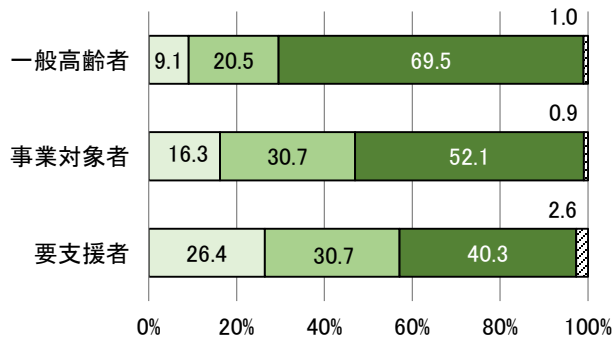


□できているし、している ■できるけどしていない
■できない □不明

□できているし、している ■できるけどしていない
■できない □不明

□できているし、している ■できるけどしていない
■できない □不明

(4) 過去1年間に転んだ経験がありますか



(5) 転倒に対する不安は大きいですか



□何度もある □1度ある ■ない □不明

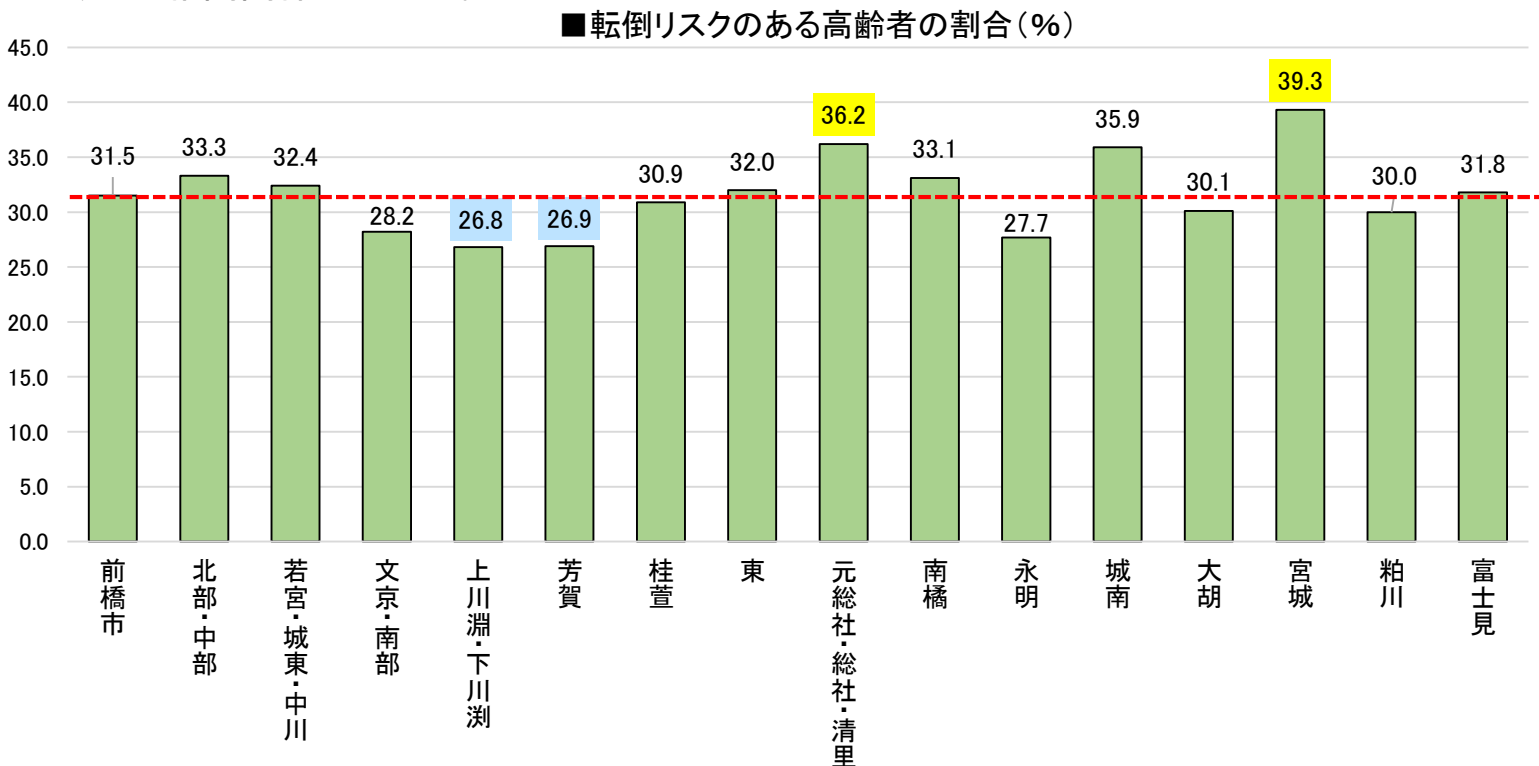
□とても不安である ■やや不安である ■あまり不安でない
□不安でない □不明

①介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

体を動かすことについて

■ 転倒リスク高齢者

- 全体では31.5%の高齢者の転倒リスクが高くなっている。
- 「宮城」は転倒リスクを抱えている人の割合が最も多い。
- 「上川淵・下川淵」「芳賀」は他の圏域に比べ特に転倒リスクが低い。
- 転倒リスクの高い「元総社・総社・清里」は、運動器機能リスクは低い傾向にあるため、必ずしも相関関係にはない。



※転倒リスク高齢者の割合は、「過去1年間に転んだ経験があるか」の設問に対し、「何度もある」又は「1度ある」を選択した回答数より作成。

①介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

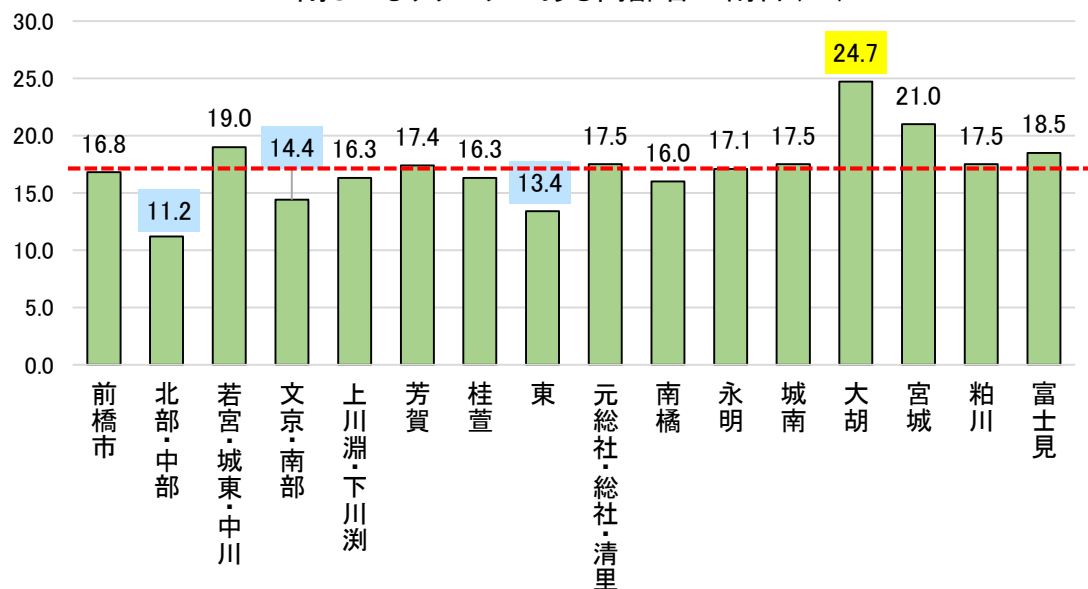
体を動かすことについて

■閉じこもりリスク

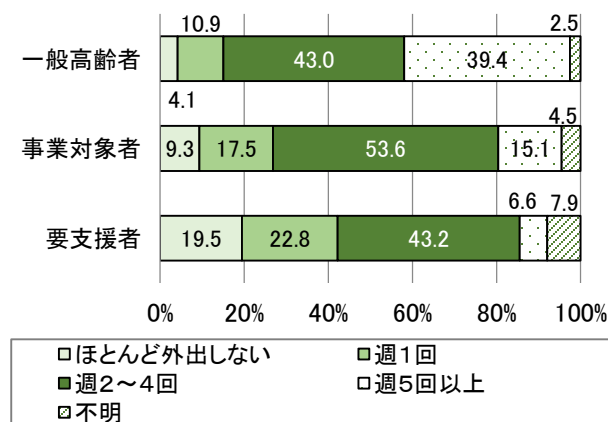
- 全体の16.8%の人が外出の機会が少なく、閉じこもりリスクを抱えている。
- 事業対象者、要支援者は、一般高齢者と比べ、週5回以上外出する人の割合が大幅に少ない。
- 「大胡」は閉じこもりリスクを抱えている人の割合が特に多い。
- 「北部・中部」「文京・南部」「東」はリスクのある人の割合が15%を下回る。

➡ 外出回数の減少は、身体的な理由だけでなく、コロナ禍における自粛の傾向や、居住地区の交通事情、商業地域の分布、通いの場等の環境も影響があると想定される。

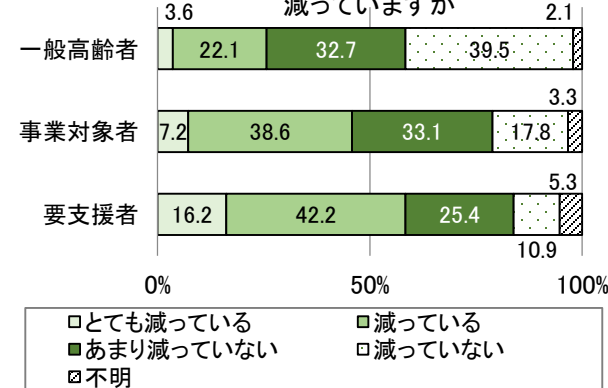
■閉じこもりリスクのある高齢者の割合(%)



(1) 週に1回以上は外出していますか



(2) 昨年と比べて外出の回数が減っていますか



※閉じこもりリスク高齢者の割合は、右記の表「(1) 週に1回以上は外出していますか」の設問から「週1回」又は「ほとんど外出しない」を選択した回答数より作成。

①介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

食べることについて

●低栄養

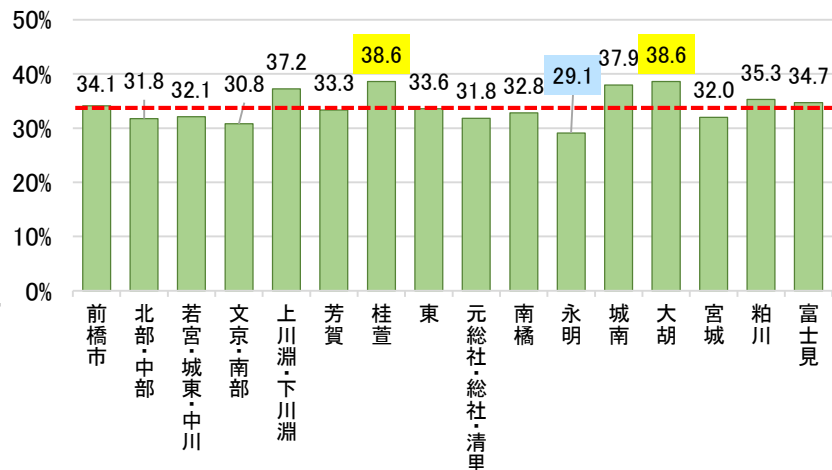
■「北部・中部」「若宮・城東・中川」は、低栄養リスクのある高齢者の割合が高い。

●咀嚼機能

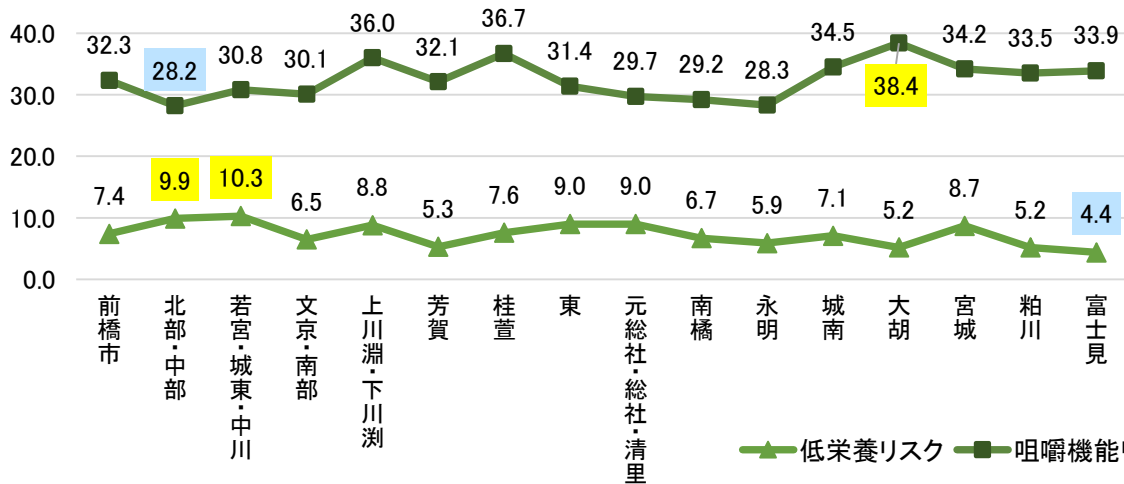
■半年前と比べて固いものが食べにくい高齢者は、全体の34.1%である。

■自分の歯が20本以上ある人の割合は、「若宮・城東・中川」「大胡」「宮城」では低く、「大胡」は半年前に比べて固いものが食べにくくなった人の割合も高くなっている。

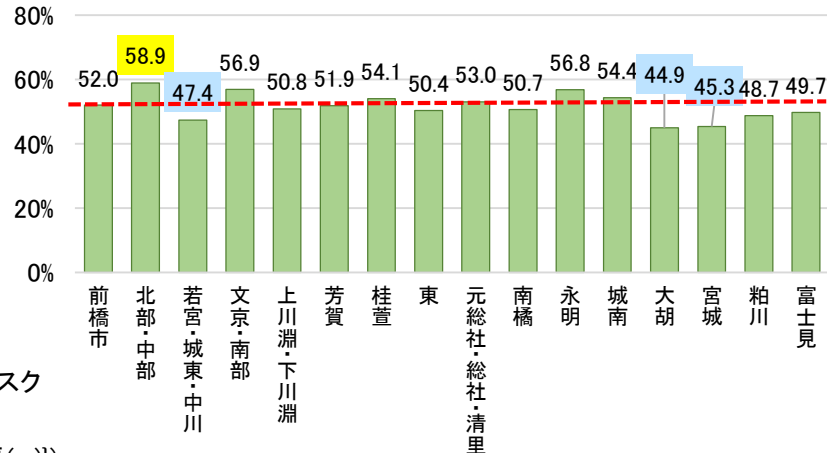
■半年前に比べて固いものが食べにくくなった人の割合(%)



■低栄養リスク・咀嚼リスクのある高齢者の割合(%)



■自分の歯が20本以上の人の割合(%)



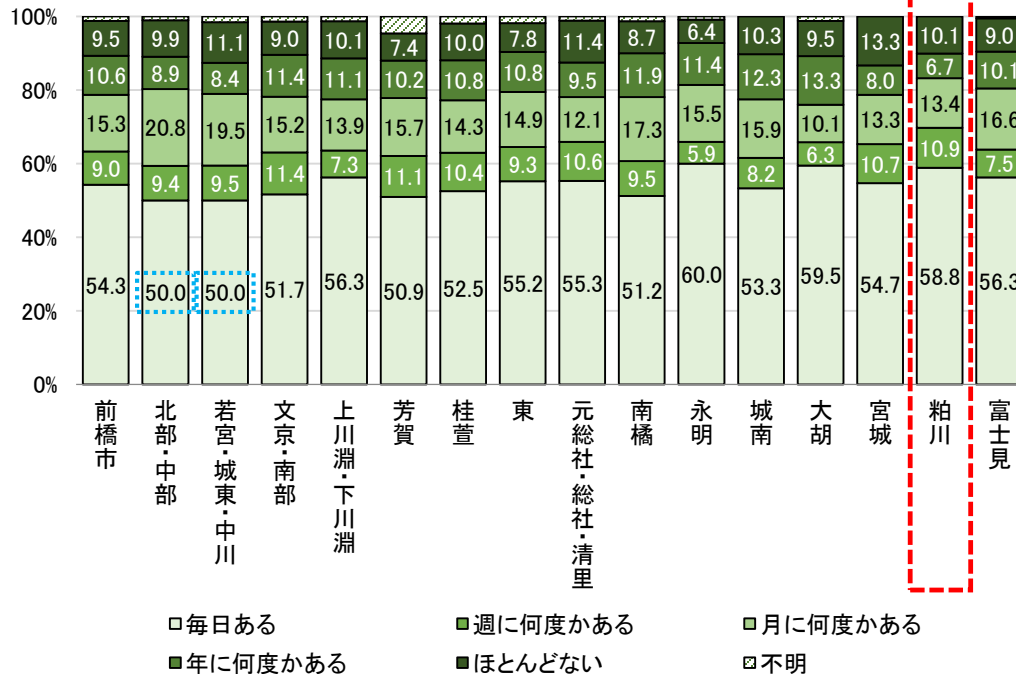
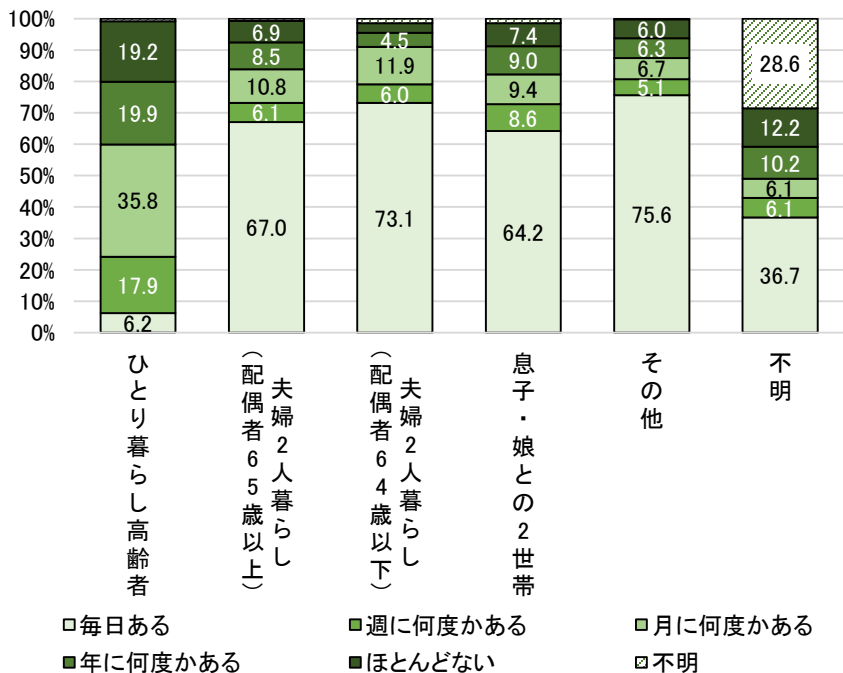
※BMI<18.5に該当する場合は、低栄養リスク高齢者として定義 BMI(体重(kg) ÷ [身長(m) X 身長(m)])
咀嚼リスク高齢者の割合は、「半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか」の設問に「はい」を選択した回答数より作成。

食べることについて

● 孤食の状況

- ひとり暮らし高齢者は他の家族構成に比べて、誰かと毎日食事を共にする割合が極端に低い。
- 「粕川」は、月に一回以上、誰かと食事を共にする機会がある割合が最も高い。
- ひとり暮らし高齢者の多い「北部・中部」や「若宮・城東・中川」は、他の圏域と比較して毎日誰かと食事をする人の割合が低い。

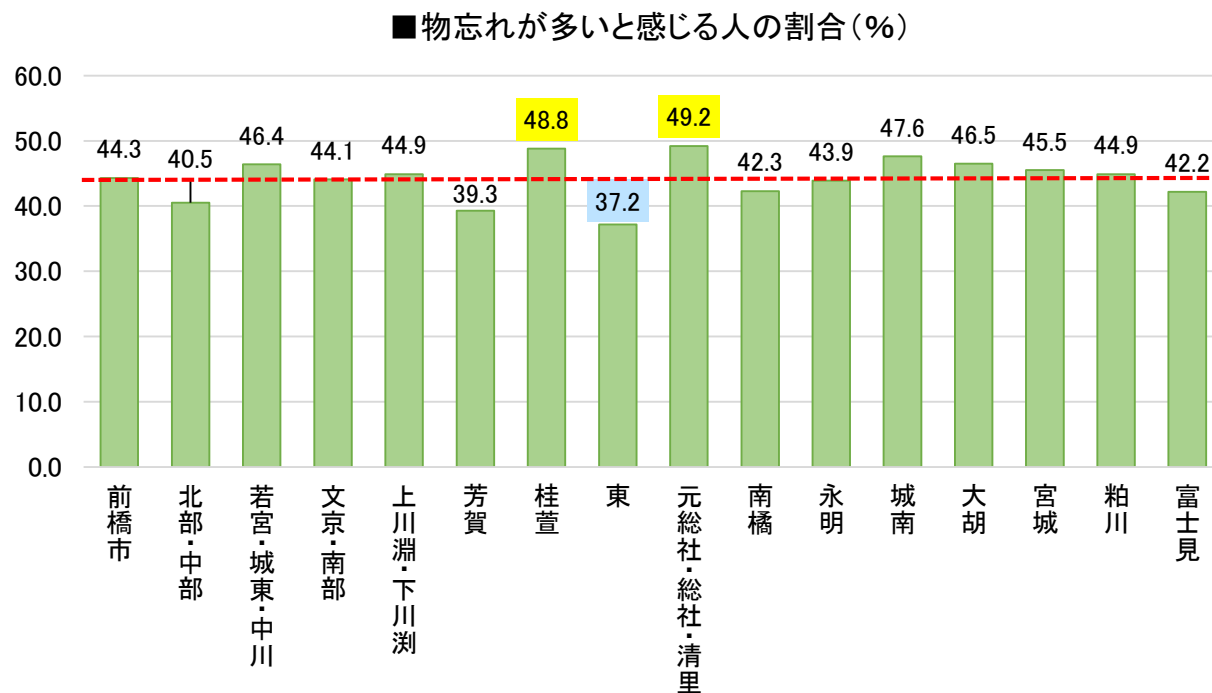
■ 誰かと食事を共にする機会がある割合(%)



毎日の生活について

●認知機能の低下

- 全体では44.3%の人が物忘れが多いと感じている。
- 圏域別に見ると、「元総社・総社・清里」が最も認知機能に不安が見られ、次いで「桂萱」の割合が高い。
- 「東」は認知機能の不安がある人の割合が最も低い。



※認知症リスク高齢者の割合は、「物忘れが多いと感じるか」という設問に「はい」と選択した回答数より作成。

①介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

毎日の生活について

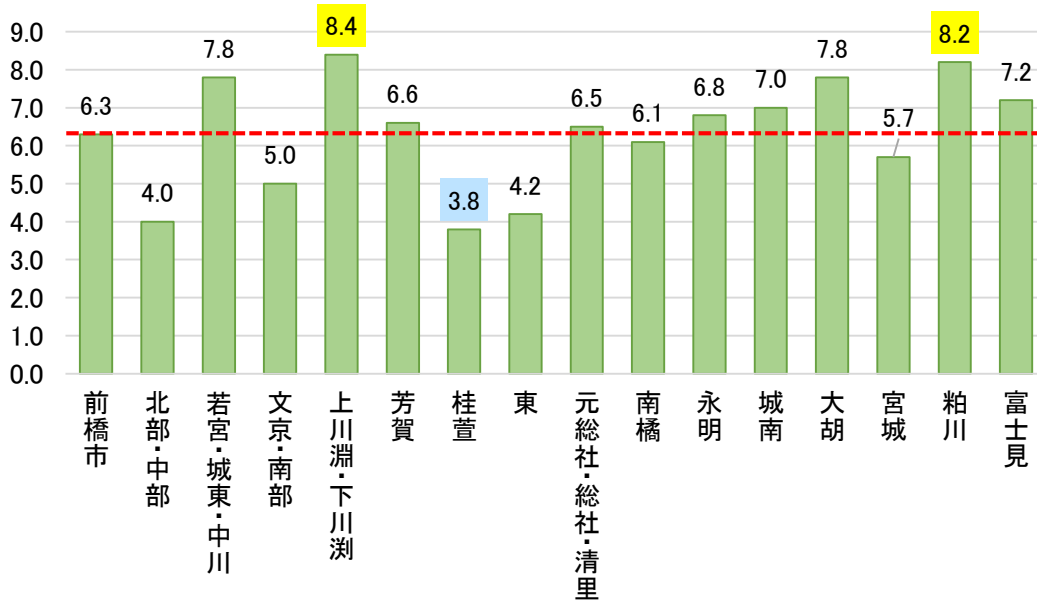
●IADL(手段的日常生活動作能力)

- 要支援者は外出に困難を抱える割合が多い一方で、食事の用意や金銭管理は、約60%の人が自ら行うことができる。
- 「上川淵・下川淵」「粕川」はIADLが低い人が多い。
- 「桂萱」は認知症リスクのある高齢者の割合が高いものの、日常生活は自立している人が多い。

<IADLが低い高齢者の定義>

※13ページの設問の(1)から(5)において、以下の項目を3つ以上選択した回答数より作成。

■IADLが低い高齢者の割合(%)

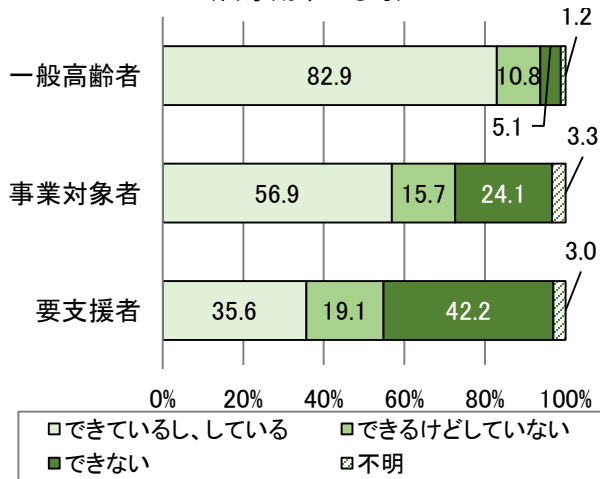


- (1) バスや電車を使って一人で外出していますか
「3.できるけどしていない」又は「4.できない」
- (2) 自分で食品・日用品の買物をしていますか
(自家用車でも可)
「3.できるけどしていない」又は「4.できない」
- (3) 自分で食事の用意をしていますか
「3.できるけどしていない」又は「4.できない」
- (4) 自分で請求書の支払いをしていますか
「3.できるけどしていない」又は「4.できない」
- (5) 自分で預貯金の出し入れをしていますか
「3.できるけどしていない」又は「4.できない」

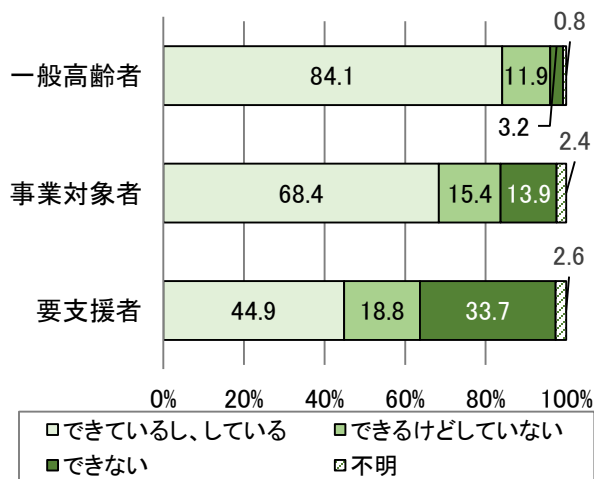
①介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

毎日の生活について

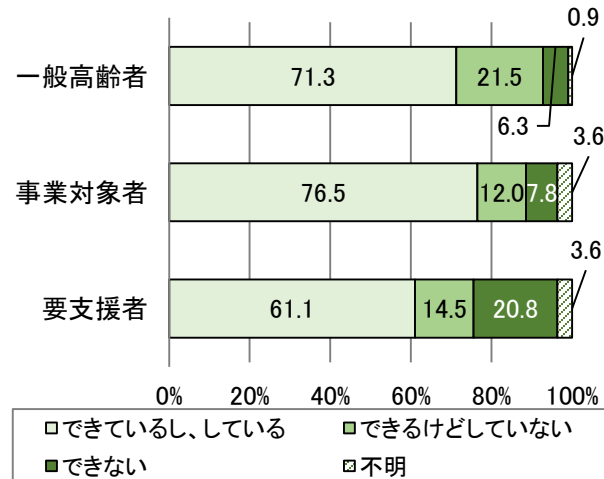
(1) バスや電車を使って1人で外出していますか
(自家用車でも可)



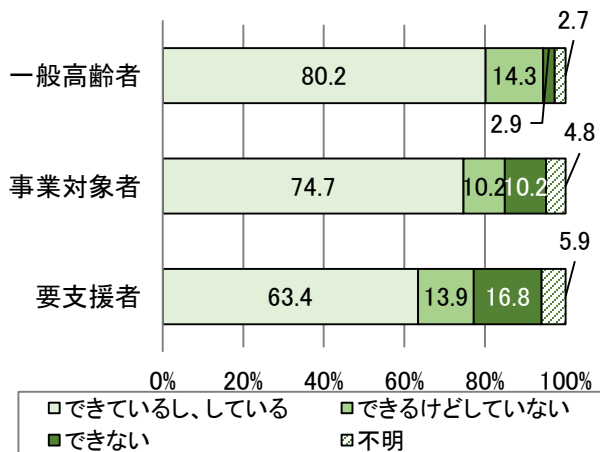
(2) 自分で食品・日用品の買い物をしていますか



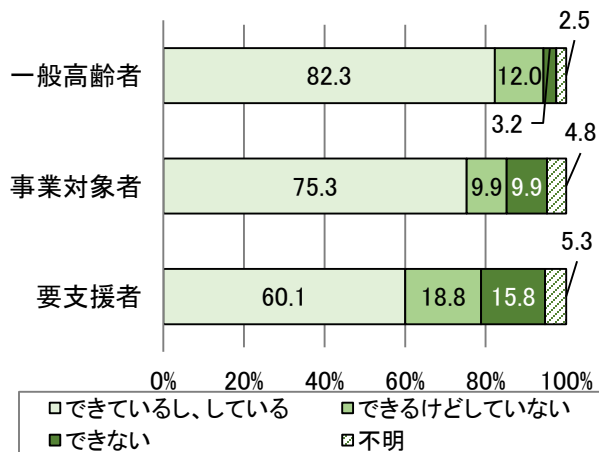
(3) 自分で食事の用意をしていますか



(4) 自分で請求書の支払いをしていますか



(5) 自分で預貯金の出し入れをしていますか

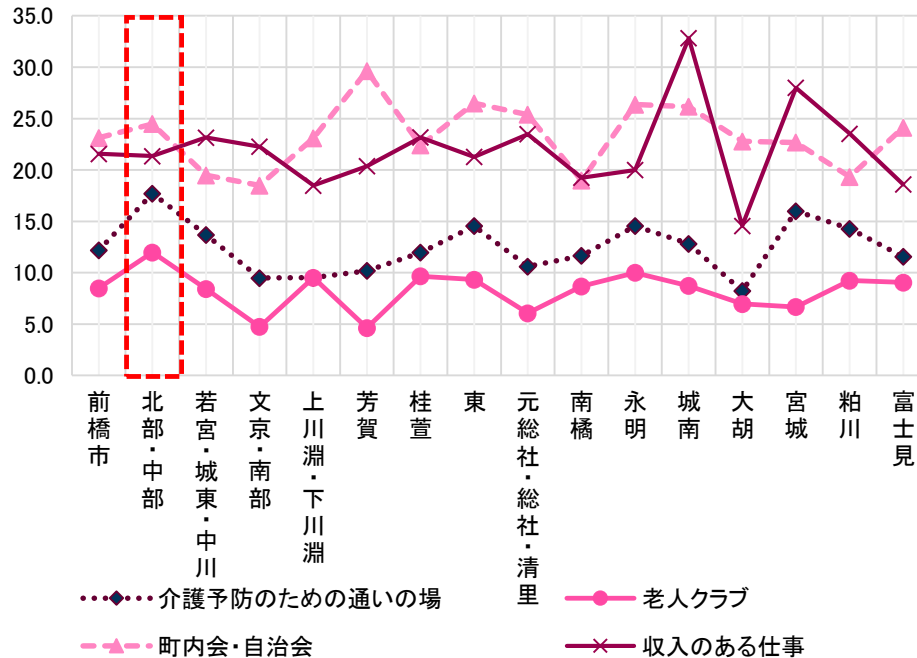
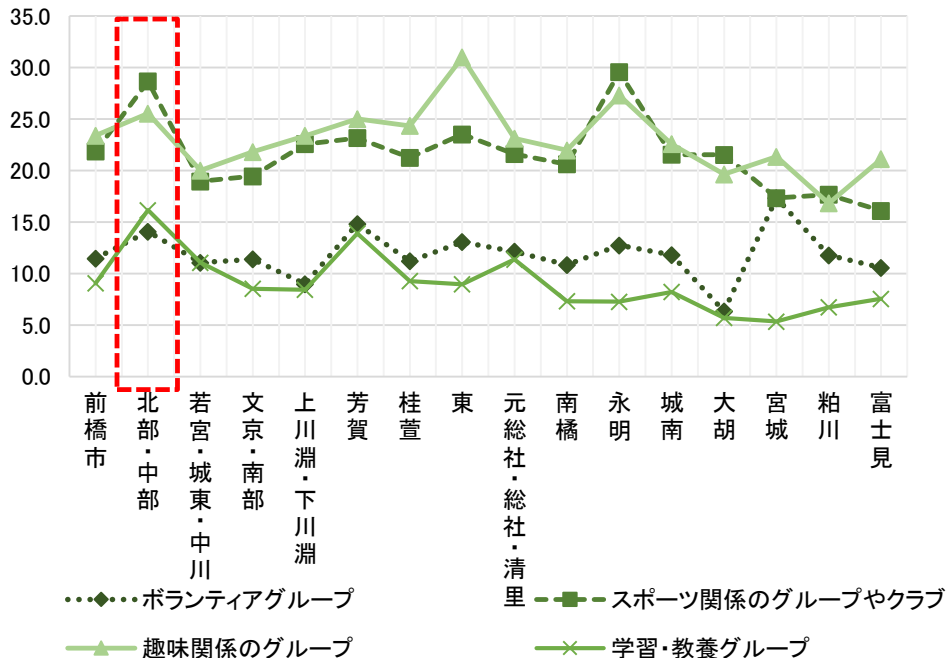


地域での活動について

■ グループ等への参加状況

- スポーツ関係や趣味のグループ、町内会・自治会や収入のある仕事を行う人の割合は比較的多い。
- ボランティアや学習・教養のグループ、通いの場、老人クラブへの参加は20%に満たない。
- 「北部・中部」は地域でさまざまな活動に参加している高齢者の割合が多い。
- 「東」は趣味関係のグループが多く、「城南」は収入のある仕事に取り組む人が多い。

■ 地域での活動に参加している高齢者の割合(%)



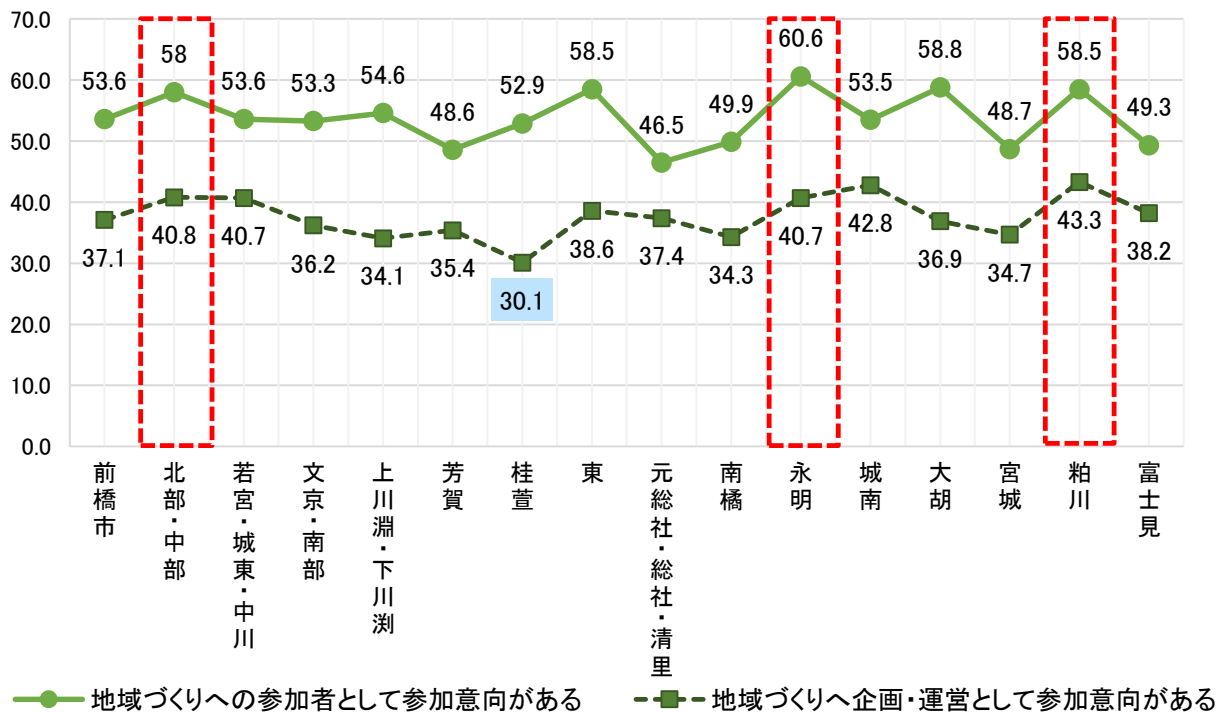
①介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

地域での活動について

■ 地域づくりへの参加

- 地域づくりに参加することについては、どの地区も45～60%程度は参加意向がある。
- 「桂萱」は、企画・運営としての参加意向が低い一方、「北部・中部」「永明」「粕川」は参加者としても企画・運営としても参加意向のある人が多い。

■ 地域での活動に参加意向のある高齢者の割合(%)



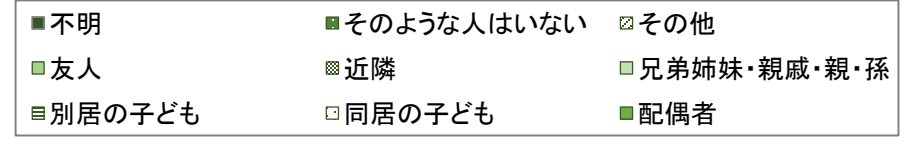
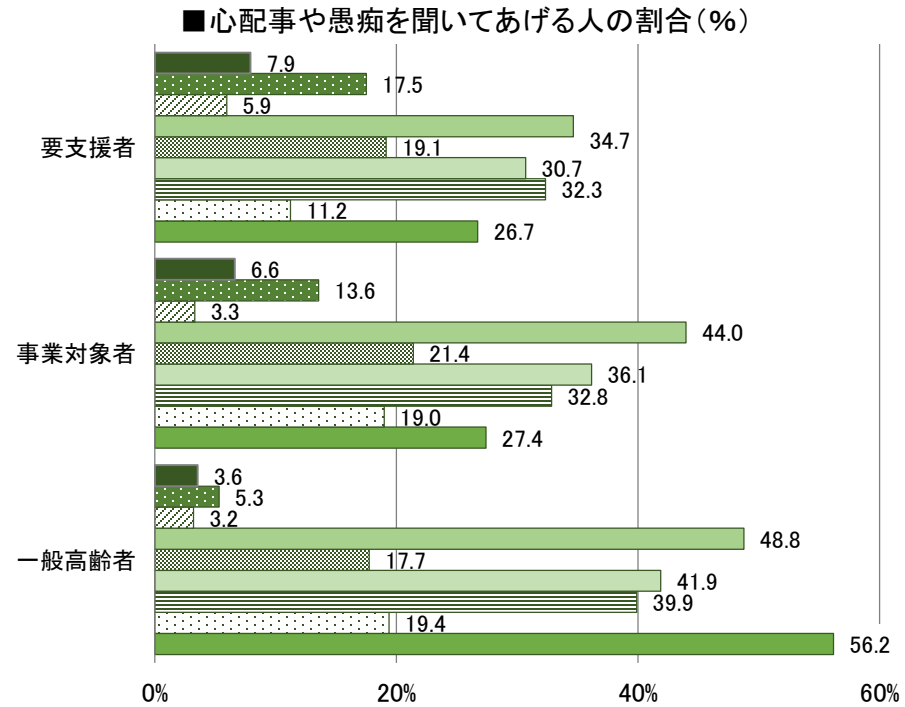
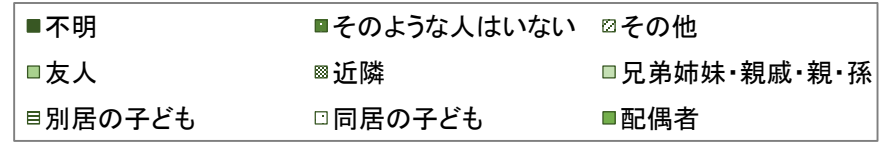
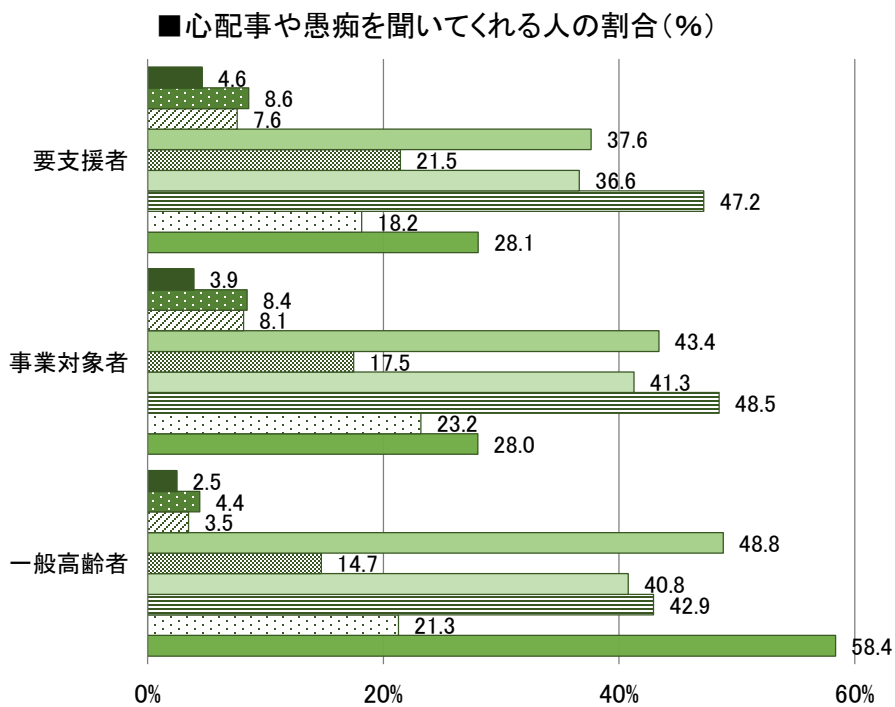
※地域づくりへの参加意向のある高齢者の割合は、地域住民の有志による健康づくり活動や趣味等の活動に対する参加意向を問う設問にて、「是非参加したい」「参加してもよい」を選択した回答数より作成。

①介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

たすけあいについて

■ 情緒的サポート

- 圏域ごとの差は大きくないが、一般高齢者は配偶者や友人がサポート相手になる割合が多い。
- 事業対象者・要支援者になると、配偶者がサポート相手になる割合が一般高齢者の半分程度になっている。
- 心配事や愚痴を聞いてあげる人は、要支援者・事業対象者ともに、一般高齢者と比べ「そのような人はいない」と回答する人の割合が多くなっている。



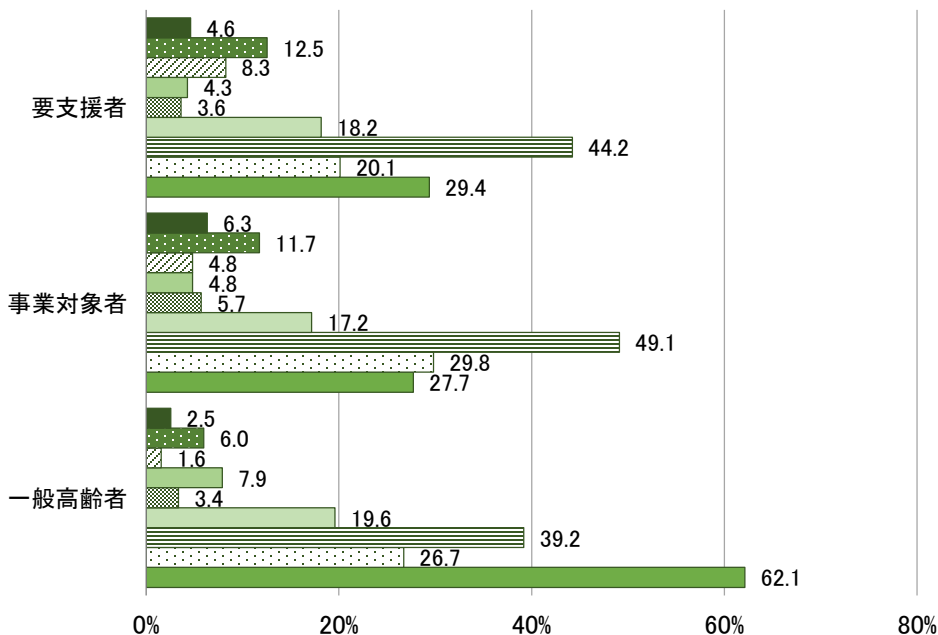
①介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

たすけあいについて

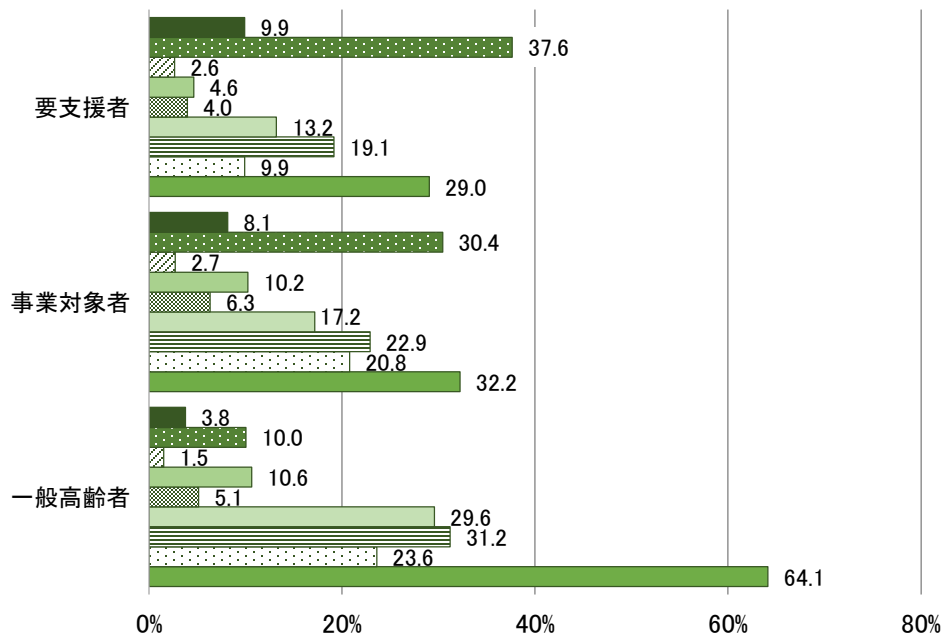
■ 手段的サポート

- 看病や世話をしてくれる人は、配偶者及び子どもが多い傾向がある。
- 「看病や世話をしてくれる人がいるか」の設問に「そのような人はいない」と回答した割合は、「北部・中部」が最も高く9.9%となっている。この圏域ではひとり暮らし世帯が多いことも一因と考えられる。
- 反対に、看病や世話をしてあげる人は、事業対象者と要支援者では、「そのような人はいない」と回答する人がそれぞれ30%を超えている。

■ 看病や世話をしてくれる人の割合 (%)



■ 看病や世話をしてあげる人の割合 (%)



■ 不明
 ■ そのような人はいない
 ■ その他
 ■ 友人
 ■ 近隣
 ■ 兄弟姉妹・親戚・親・孫
 ■ 別居の子ども
 ■ 同居の子ども
 ■ 配偶者

■ 不明
 ■ そのような人はいない
 ■ その他
 ■ 友人
 ■ 近隣
 ■ 兄弟姉妹・親戚・親・孫
 ■ 別居の子ども
 ■ 同居の子ども
 ■ 配偶者

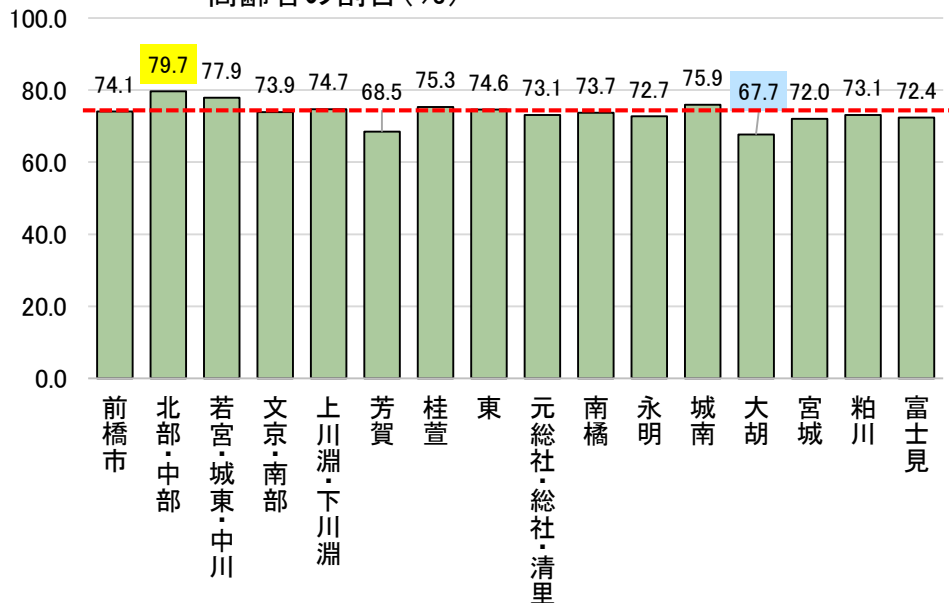
①介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

健康について

■ 主観的健康感

- 市全域では74.1%の人が、自らの健康状態を「よい」「まあよい」と感じている。
- 「北部・中部」は主観的健康感がよい人が多い。
- 「大胡」は、健康状態を「よい」「まあよい」と回答した割合が最も少ない上、運動器機能リスクも高くなっている。

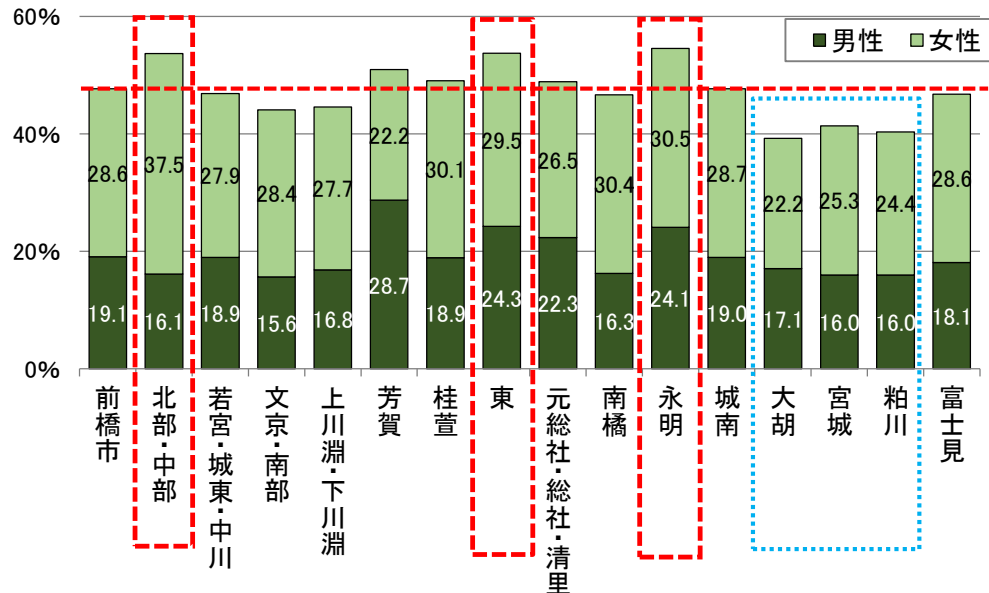
■ 現在の健康状態を「よい」「まあよい」と回答した高齢者の割合(%)



■ 主観的幸福感

- 市全域では47.7%が8点以上を選んでいる。
- 「大胡」「宮城」「粕川」では8点以上を選んだ人の割合が低くなっている。
- 「北部・中部」「東」「永明」は8点以上を選んだ人の割合が高い。

■ 主観的幸福感を8点以上と答えた高齢者の割合(10点評価)(%)

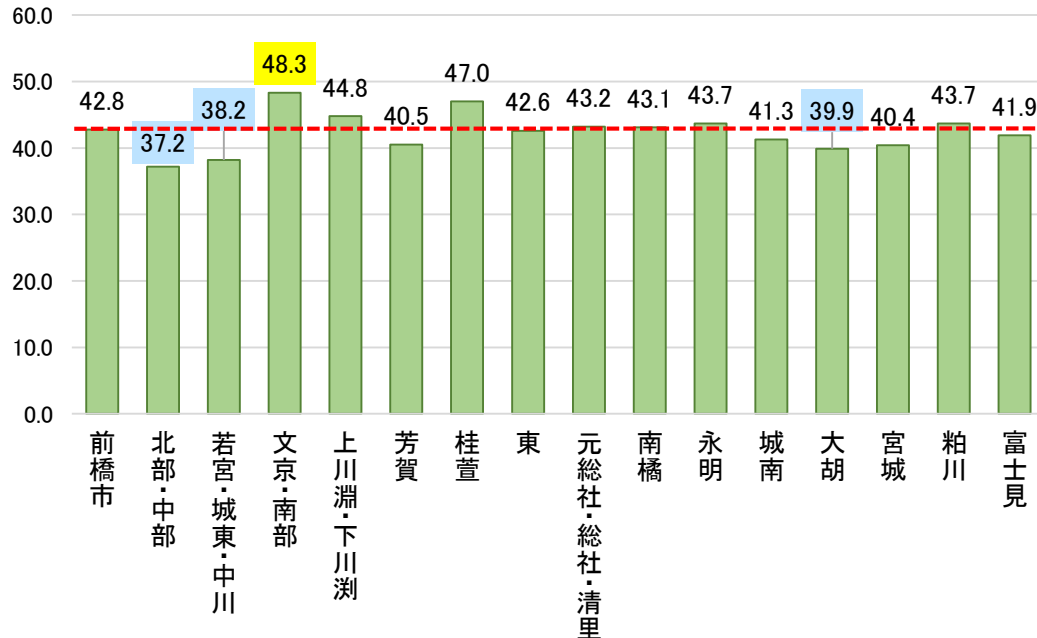


健康について

■うつ傾向

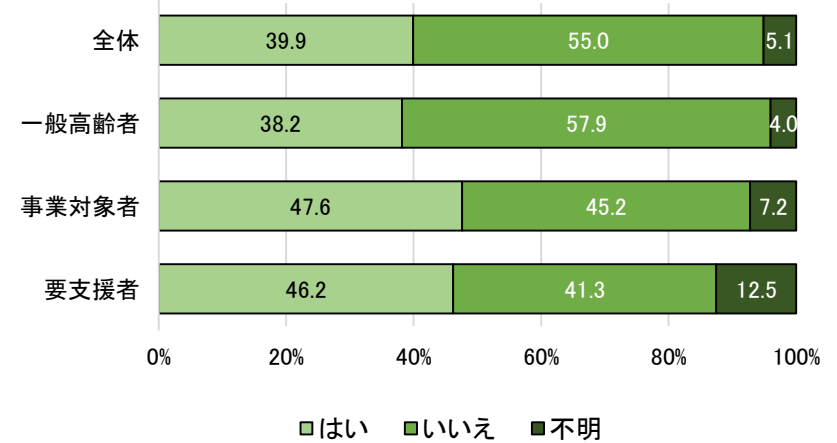
- 一般高齢者よりも、事業対象者や要支援者の方が、うつリスクが高い。
- 「北部・中部」「若宮・城東・中川」「大胡」は、比較的には低くなっているものの、うつリスクを抱える人は、どの圏域でも40%前後という高い割合となっている。

■うつリスク高齢者の割合(%)

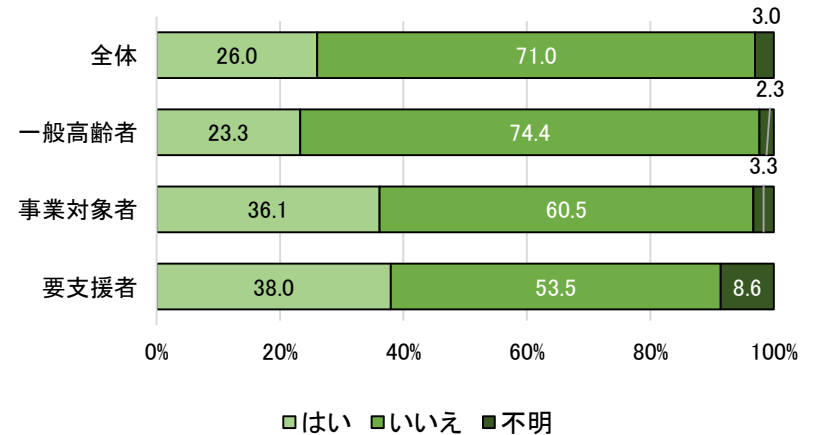


※うつリスク高齢者の割合は、右のいずれかの設問で「はい」を選択した回答数より作成。

■「この1か月間、気分が沈んだりゆううつになったりすることがありましたか」に対する回答(%)



■「この1か月間、物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがありましたか」に対する回答(%)

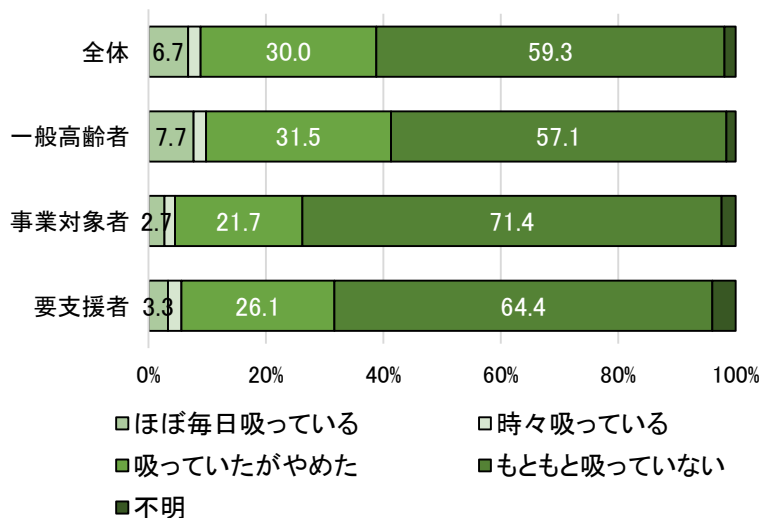


健康について

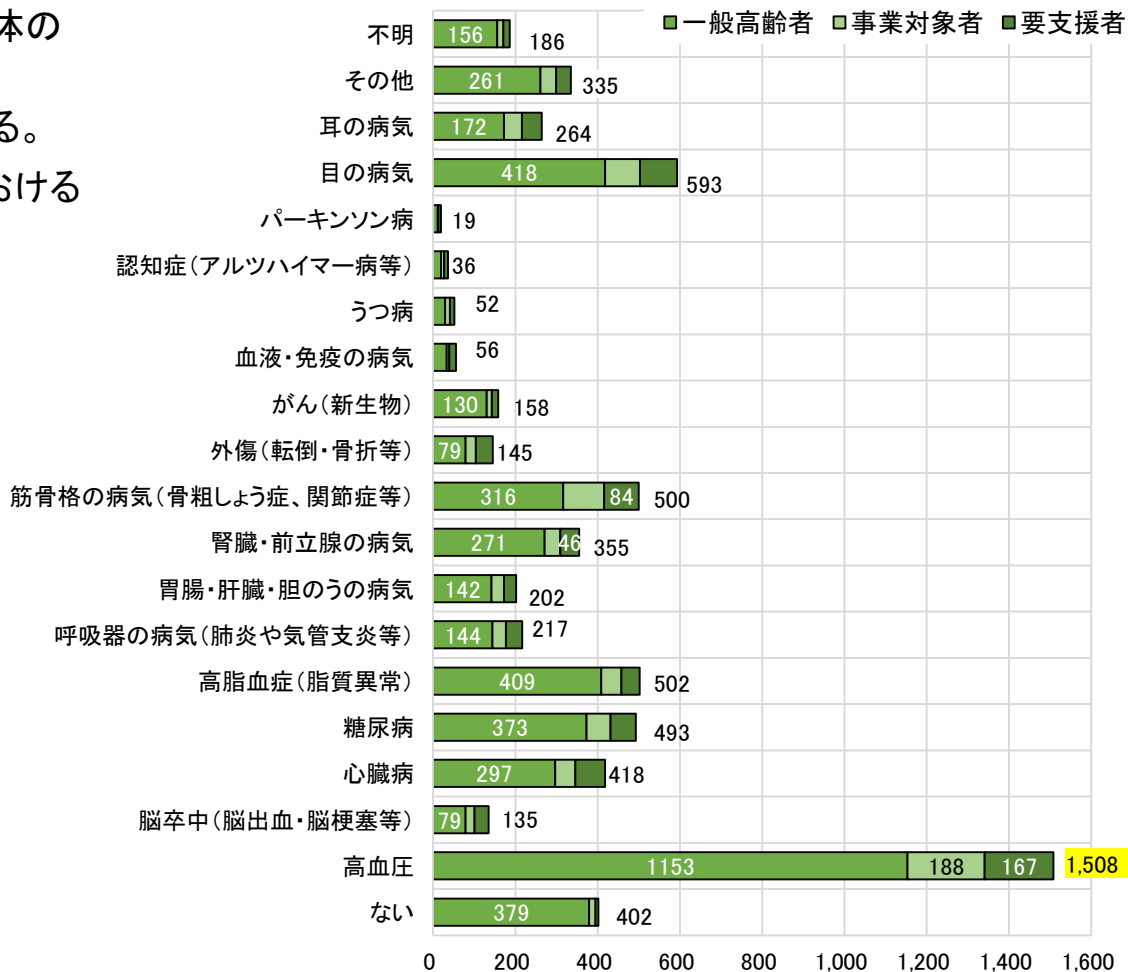
■ 病気について

- タバコを毎日吸っている人の割合は10%を切っている。現在治療中の病気のある人は全体の81.6%。
- 高血圧は、回答者の47.2%が該当している。
- 病気の種類は要支援等の認定の状況における大きな差はない。

■タバコを吸っている人の割合(%)



■「現在治療中の病気がありますか」に対する回答(人)

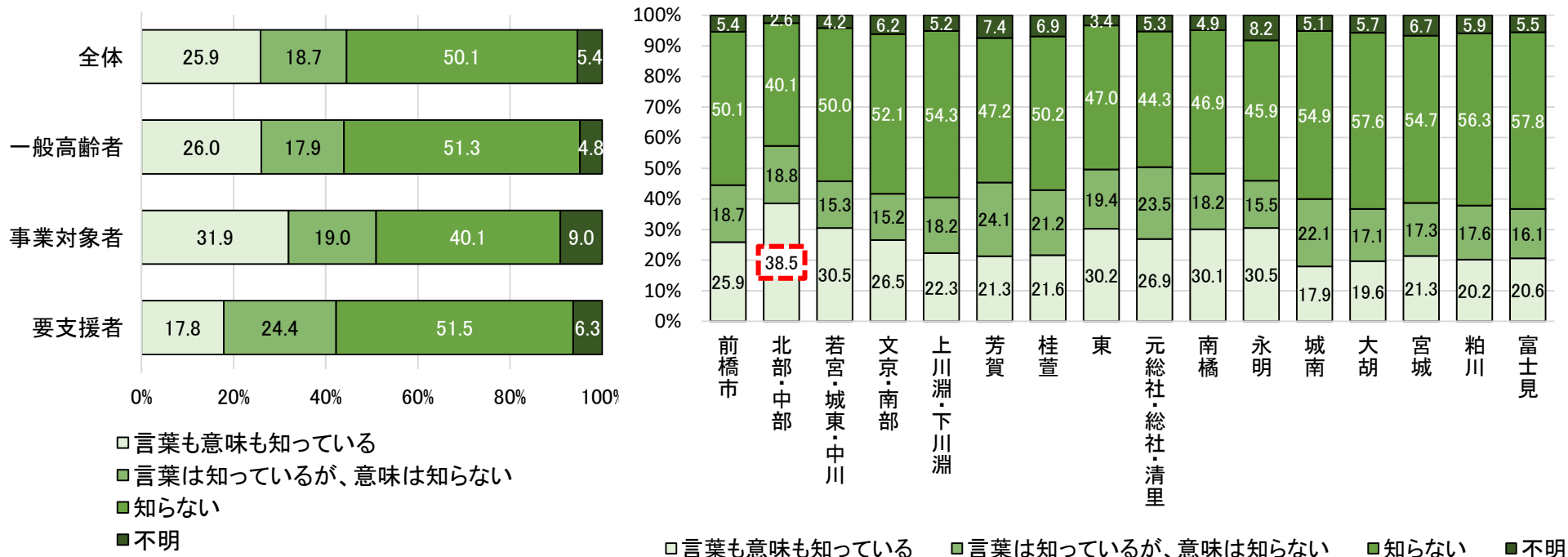


健康について

■フレイルについて

- 全体では、4人に1人がフレイルという言葉の意味も含めて知っている。
- 事業対象者では約50%の人が「フレイル」という言葉を知っており、関心が高いことが伺える。
- 「北部・中部」では、言葉も意味も知っている割合が高い。

■「フレイル」という言葉を知っている割合(%)



※フレイル＝健康と要介護状態の間である虚弱状態

在宅医療・人生の最期について

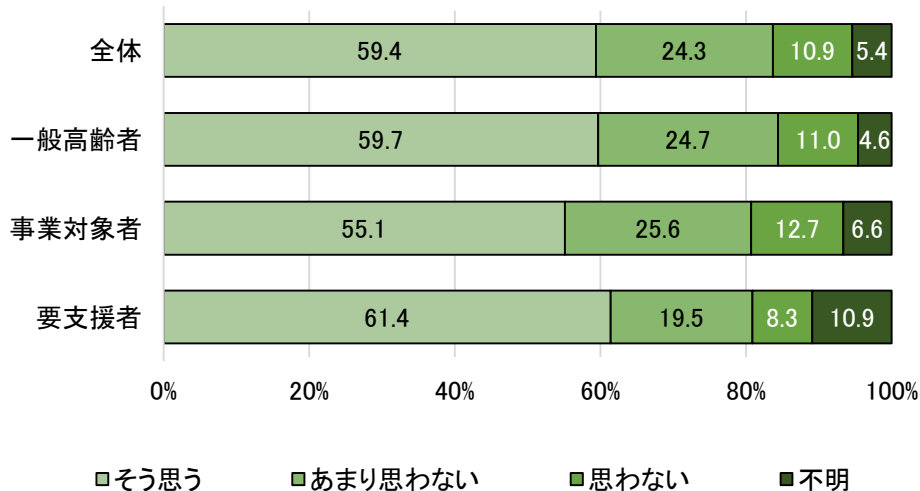
■ 在宅医療

- 約60%の人が在宅医療を望んでいる。

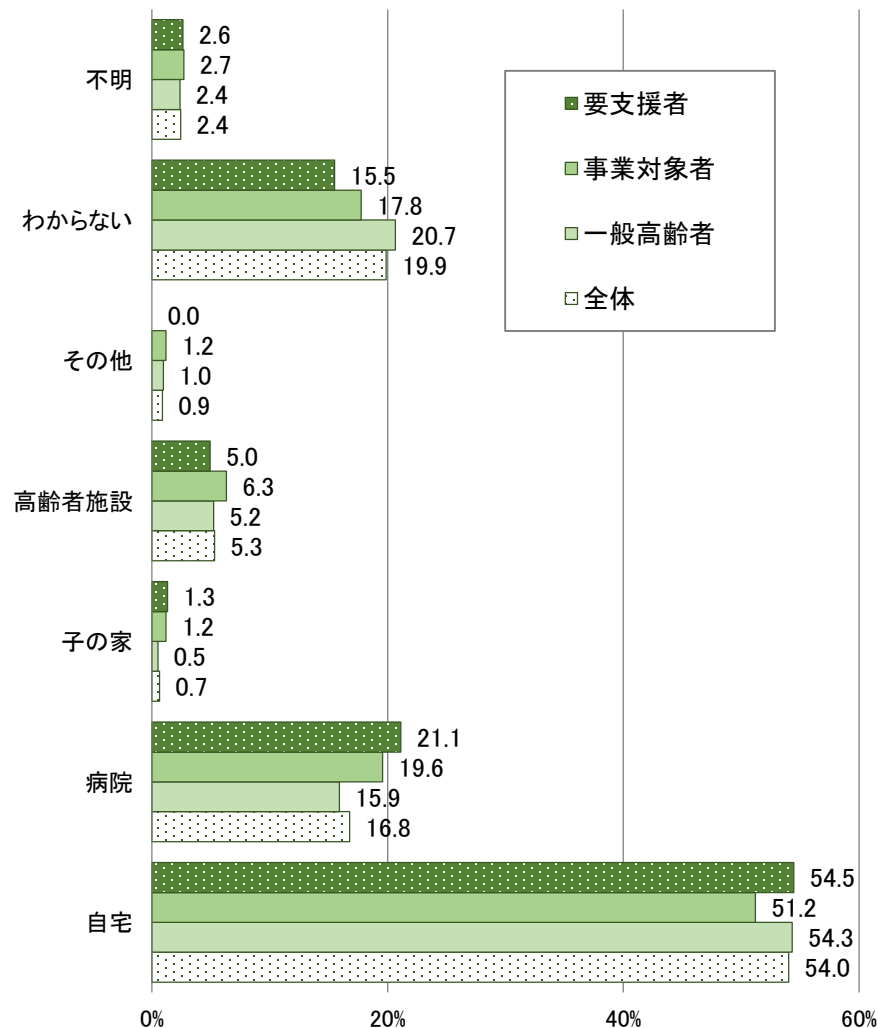
■ 人生の最期

- 自宅で最期を過ごしたい人は50%を超えている。
- 病院で過ごしたいと考えている人の割合は要支援者が多い。

■ 通院が困難な状態になった場合、在宅医療を受けたい人の割合(%)



■ 人生の最期をどこで迎えたいですか

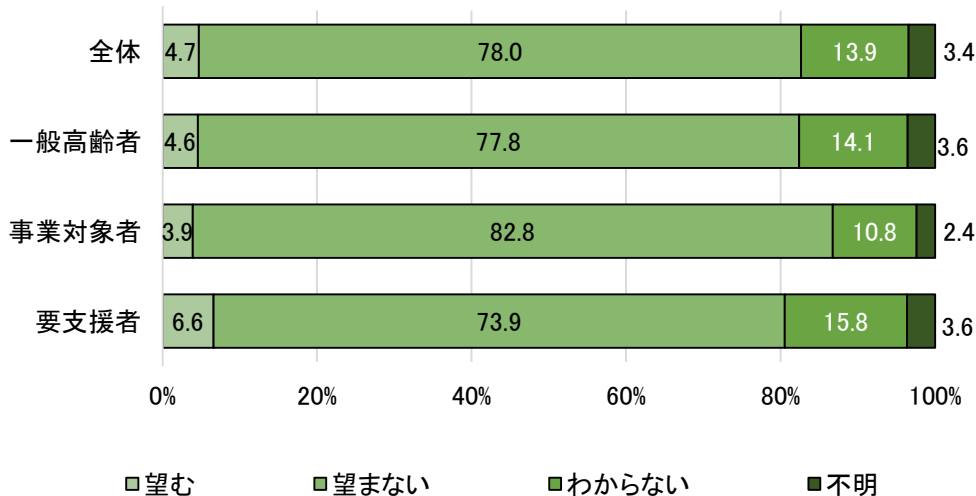


在宅医療・人生の最期について

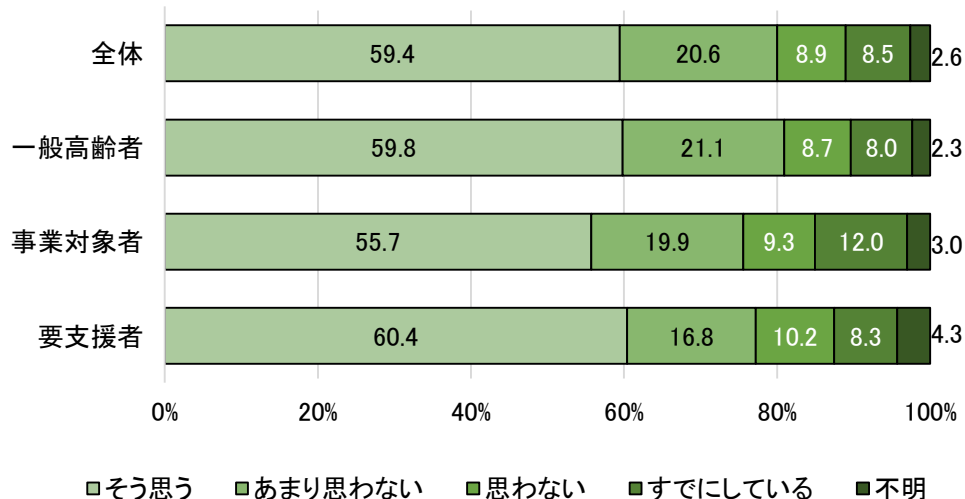
■ 人生の最期

- 延命治療を望む人の割合は10%を切っており、全体では約80%の人が延命治療を望まないと回答している。
- 人生の最期における希望について、家族や大切な人と話し合いたい人は全体の約60%に上るものの、すでに話をしている人は少なく、約10%であった。
- すでに話をしている割合は事業対象者では若干高くなっている。

■「人生の最期のときに延命治療を望みますか」に対する回答(%)



■「人生の最期における希望について、家族や大切な人と話し合ったり共有したいですか」に対する回答(%)

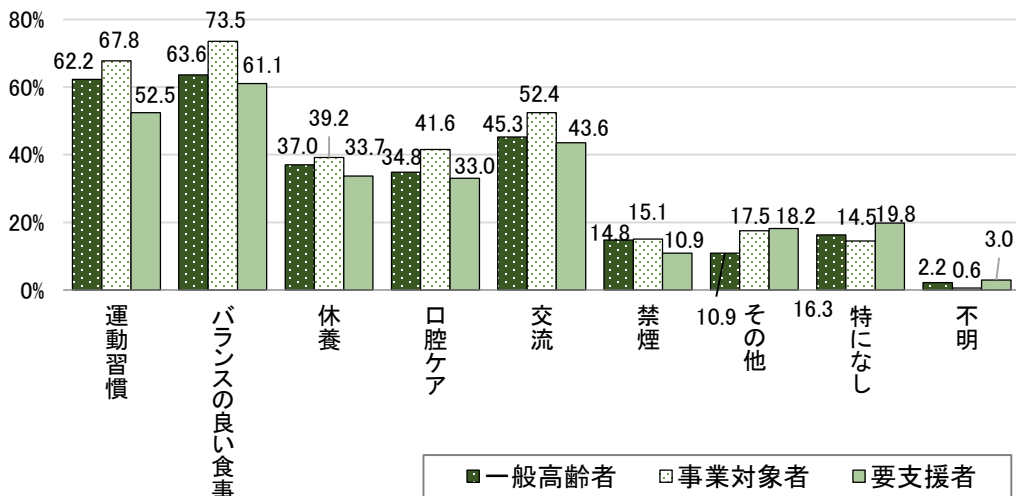


認知症について

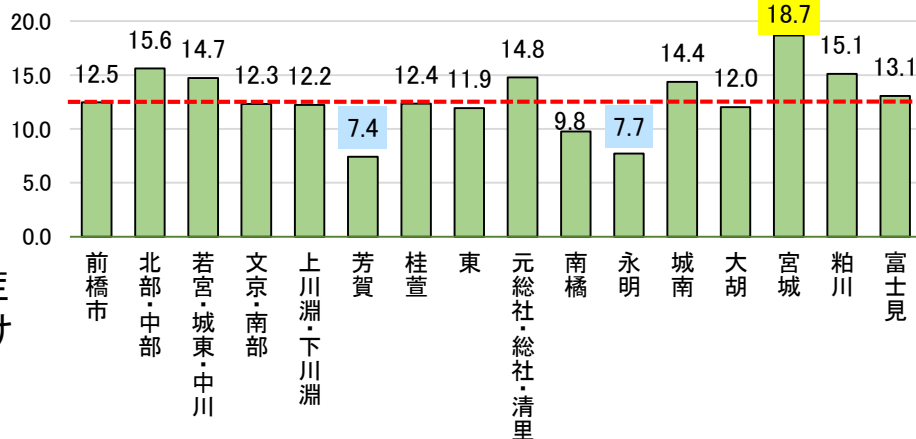
■ 認知症予防

- 「宮城」は本人や家族に認知症の症状がある人が多い一方、相談窓口の認知度は約30%にとどまる。
- 「芳賀」「永明」は認知症状のある人の割合が低い。
- 認知症予防のために、運動習慣とバランスの良い食事に気を付けている人が多い。
- 事業対象者は、一般高齢者に比べて、認知症予防に意識的に取り組んでいる割合が多いことが見受けられる。

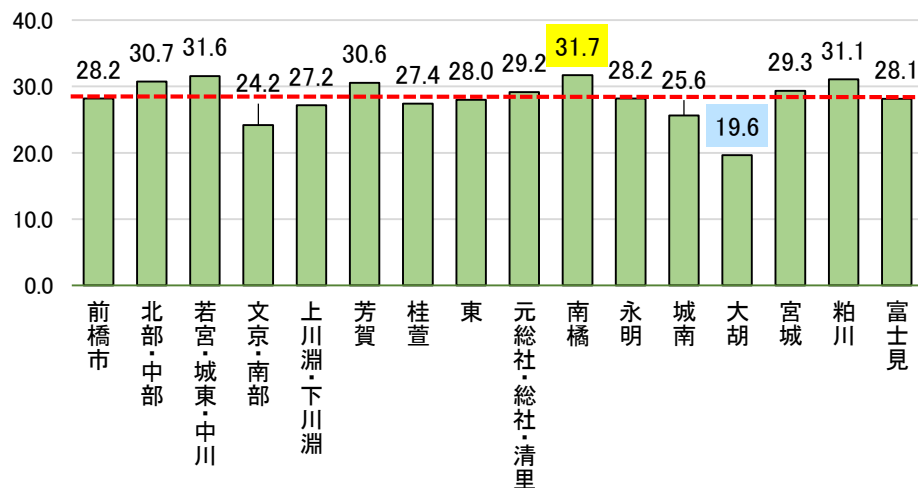
■「認知症予防のために心掛けていることはありますか」に対する回答(%)



■本人に認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人の割合(%)



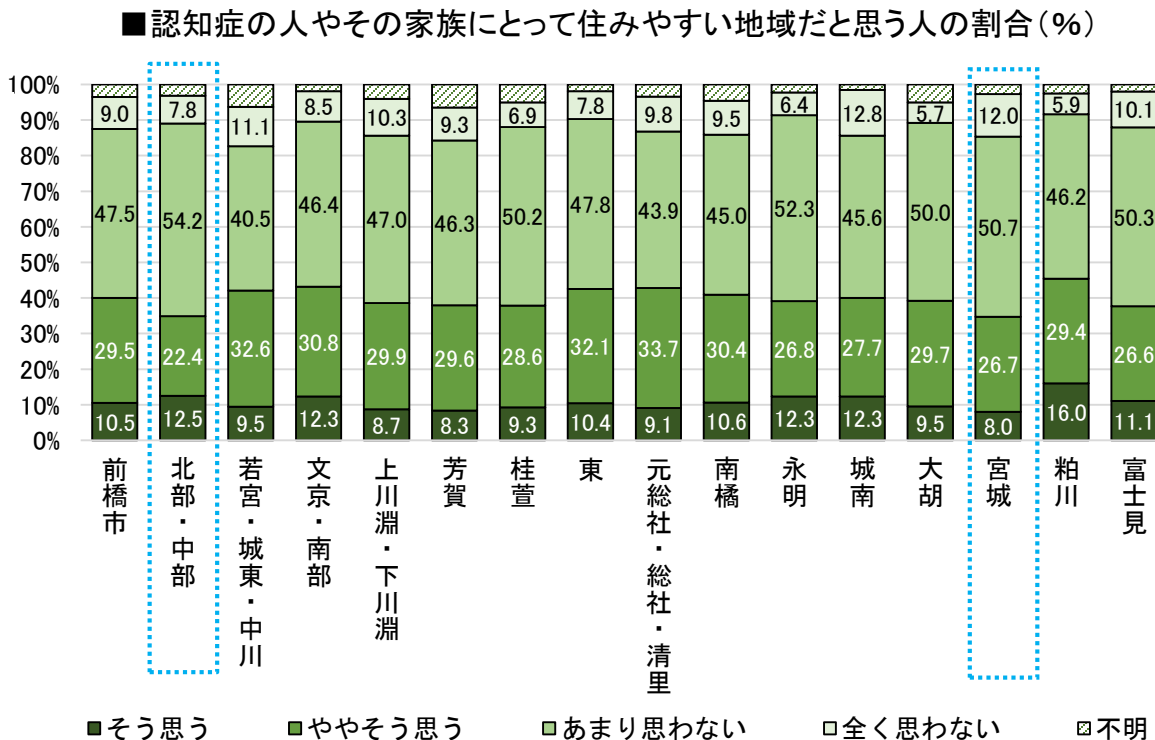
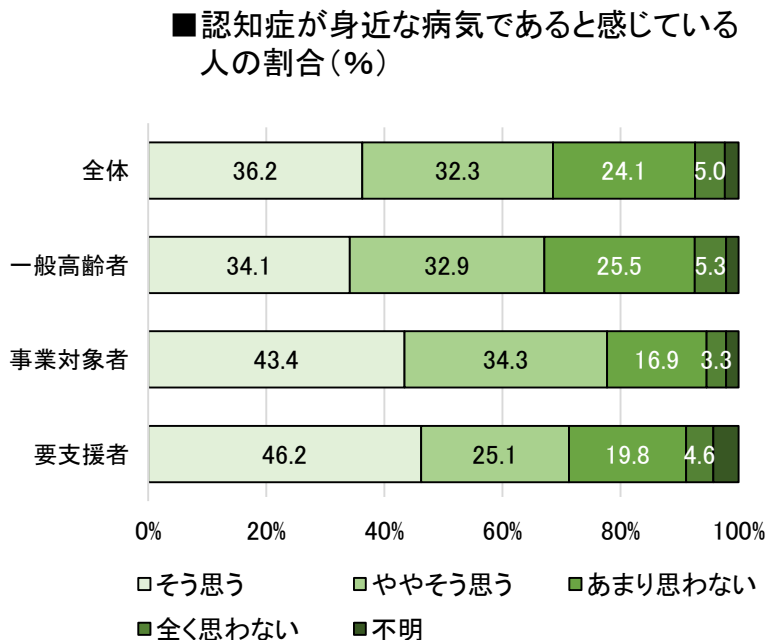
■認知症に関する相談窓口を知っている人の割合(%)



認知症について

● 認知症と暮らす社会

- 認知症は回答者全体の約70%の人から身近な病気として捉えられている。事業対象者及び要支援者になると、身近に感じる人の割合が10%程度増えている。
- 一方で、認知症の人やその家族にとって住みやすいと考える人の割合は40%となっている。
- 「北部・中部」「宮城」は、認知症の人やその家族にとって住みにくいと思う人の割合が高い。



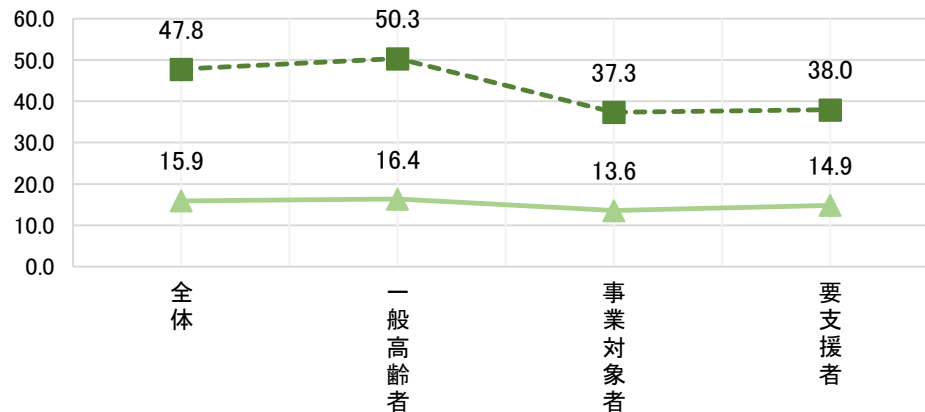
①介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

制度・サービスの認知度について

- 成年後見制度の認知度は一般高齢者に比べて事業対象者と要支援者は低くなっている。
- 全体として、サービスの認知度は高いとは言えず、特に認知症支援に関するサービスが知られていない。

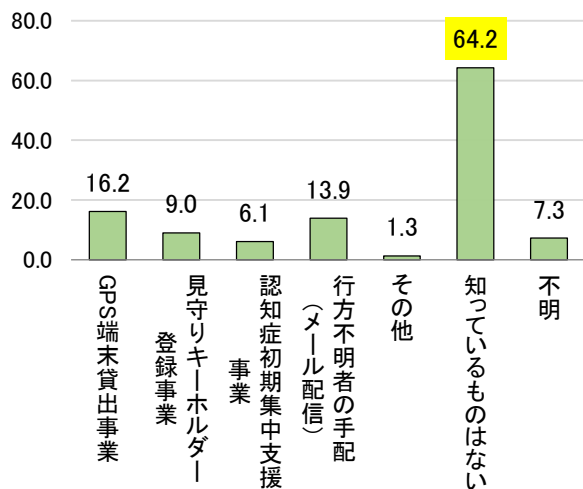
※各認知度に対する設問に、「知っている」と選択した回答数より作成。

(1) 成年後見制度の認知度 (%)

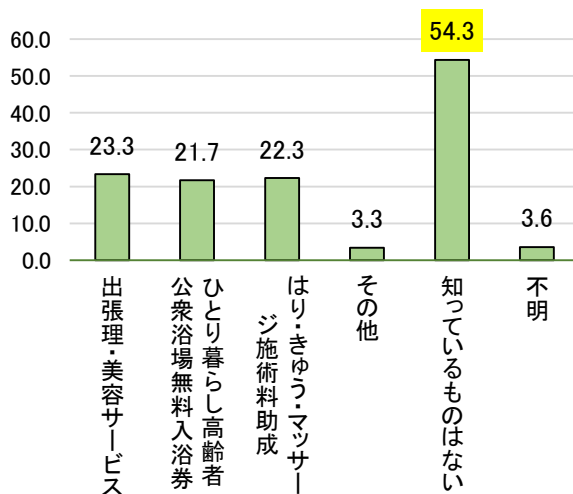


—■— 成年後見制度の認知度 (%) —▲— 成年後見制度の相談窓口の認知度 (%)

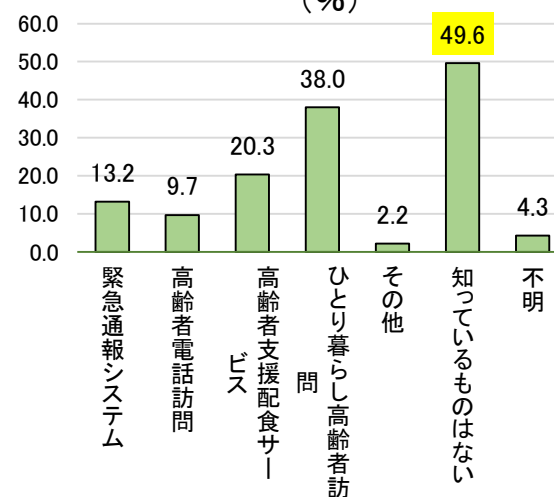
(2) 認知症支援に関するサービスの認知度 (%)



(3) 高齢者福祉サービスの認知度 (%)

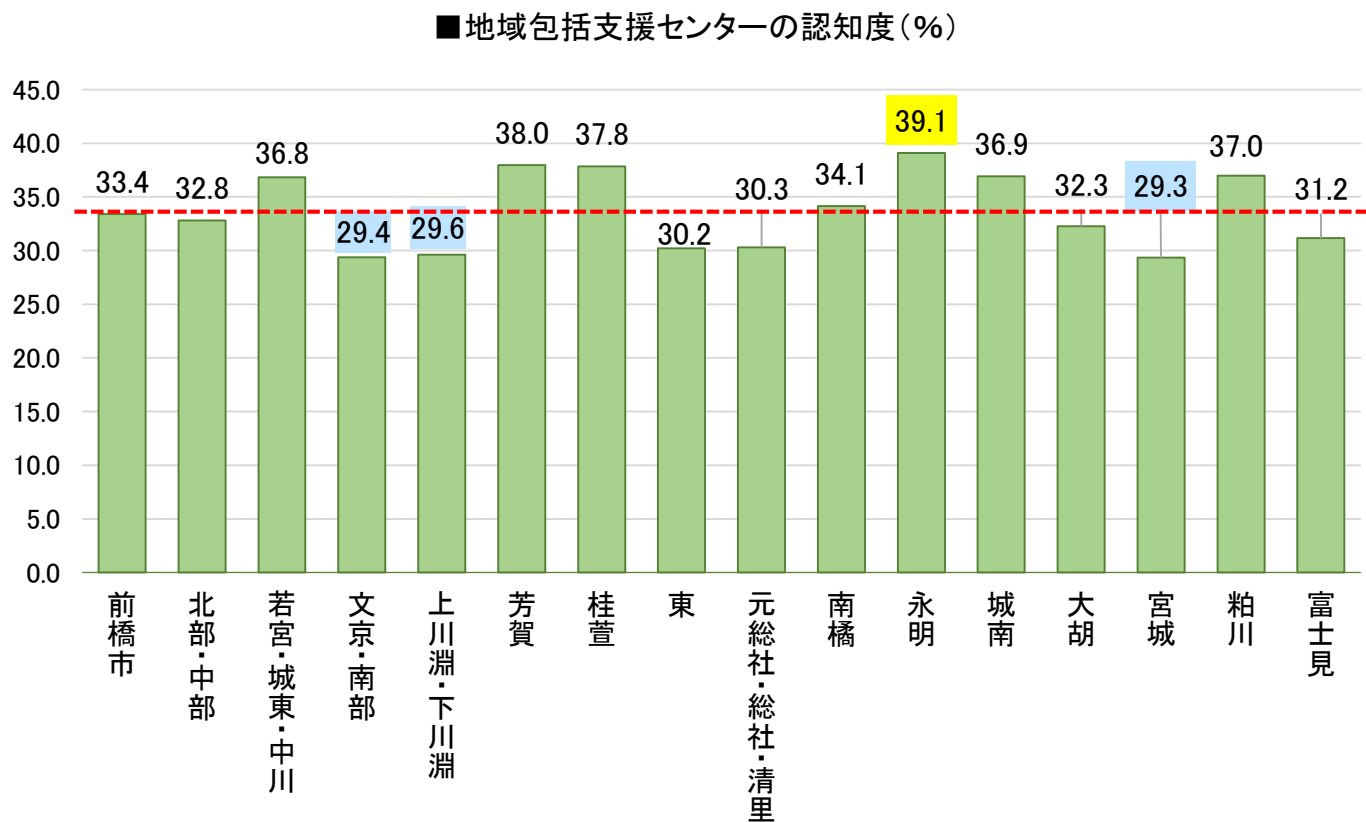


(4) 見守り・安否確認サービスの認知度 (%)



地域包括支援センターについて

- 地域包括支援センターの認知度は33.4%。
- 圏域別に見ると「永明」の認知度が高く、「文京・南部」「上川淵・下川淵」「宮城」の認知度が特に低く、30%を切っている。



①介護予防・日常生活圏域二一ス調査

まとめ①

単位：%

	世帯構成			介護を受けている	介護は必要だが未利用	経済的な状況が苦しい	運動器機能リスク	転倒リスク	閉じこもりリスク	低栄養リスク	咀嚼機能リスク	誰かと食事する機会がない	認知機能リスク	IADLが低い	
	単身	夫婦のみ	その他												
前橋市全体	21.7	42.9	35.4	7.3	11.6	30.5	14.1	31.5	16.8	7.4	32.3	9.5	44.3	6.3	
中央	1 北部・中部	34.4	37.5	28.1	6.8	12.0	24.5	14.9	33.3	11.2	9.9	28.2	9.9	40.5	4.0
	2 若宮・城東・中川	27.4	40.5	32.1	3.2	15.3	34.7	15.7	32.4	19.0	10.3	30.8	11.1	46.4	7.8
	3 文京・南部	26.5	44.1	29.4	9.5	10.4	28.0	12.5	28.2	14.4	6.5	30.1	9.0	44.1	5.0
南	4 上川淵・下川淵	21.5	38.9	39.7	6.8	13.6	34.5	15.6	26.8	16.3	8.8	36.0	10.1	44.9	8.4
	10 永明	16.8	47.7	35.5	6.4	9.1	25.0	15.0	27.7	17.1	5.9	28.3	6.4	43.9	6.8
	11 城南	17.9	42.6	39.5	9.2	9.7	31.8	14.2	35.9	17.5	7.1	34.5	10.3	47.6	7.0
北	5 芳賀	17.6	50.0	32.4	7.4	12.0	38.0	12.9	26.9	17.4	5.3	32.1	7.4	39.3	6.6
	9 南橋	23.8	40.4	35.8	10.3	10.0	27.1	11.9	33.1	16.0	6.7	29.2	8.7	42.3	6.1
	15 富士見	16.6	39.7	43.7	5.5	13.1	34.7	15.8	31.8	18.5	4.4	33.9	9.0	42.2	7.2
東	6 桂萱	23.9	39.0	37.1	5.8	10.0	33.6	14.9	30.9	16.3	7.6	36.7	10.0	48.8	3.8
	12 大胡	12.0	48.7	39.2	5.1	13.9	27.2	16.1	30.1	24.7	5.2	38.4	9.5	46.5	7.8
	13 宮城	13.3	52.0	34.7	13.3	8.0	25.3	14.0	39.3	21.0	8.7	34.2	13.3	45.5	5.7
	14 粕川	18.5	47.9	33.6	6.7	13.4	31.9	12.4	30.0	17.5	5.2	33.5	10.1	44.9	8.2
西	7 東	17.9	47.4	34.7	8.6	12.7	25.7	13.9	32.0	13.4	9.0	31.4	7.8	37.2	4.2
	8 元総社・総社・清里	25.0	43.6	31.4	6.4	10.2	34.5	12.2	36.2	17.5	9.0	29.7	11.4	49.2	6.5

※各設問に対して上位2位までの圏域を赤色、下位2位までの圏域を水色としています。

①介護予防・日常生活圏域二一ス調査

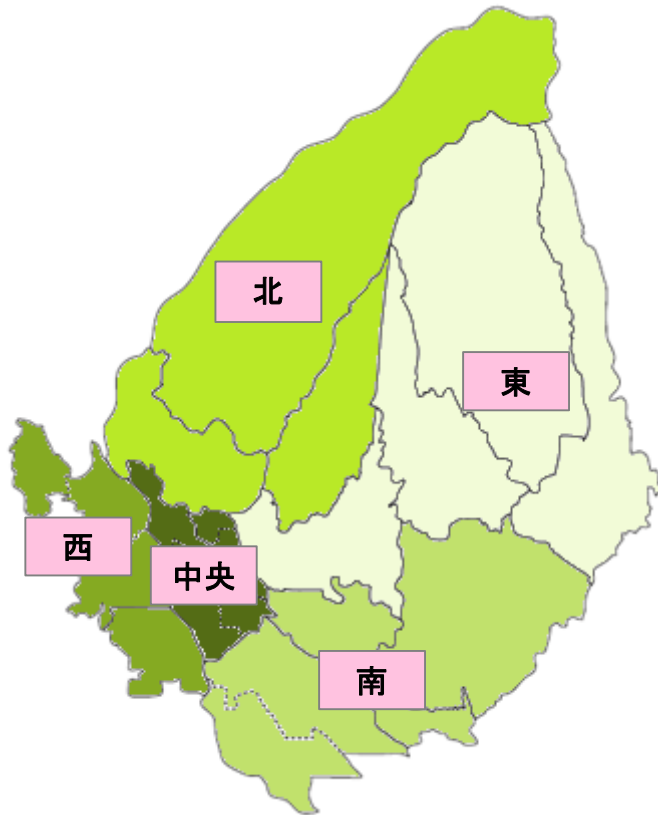
まとめ①

単位：%

		グループ活動等への参加状況							参加意向		主観的健康観が よい	主観的幸福感が 高い	うつリスク	
		ボランティア	スポーツ	趣味	学習・教養	介護予防のための 通いの場	老人クラブ	町内会・自治会	収入のある仕事	参加者としての 参加意向				企画・立案者 としての参加意向
前橋市全体		11.5	21.8	23.4	9.0	12.2	8.5	23.1	21.6	53.6	37.1	74.1	47.7	42.8
中央	1 北部・中部	14.1	28.6	25.5	16.1	17.7	12.0	24.5	21.4	58.0	40.8	79.7	53.6	37.2
	2 若宮・城東・中川	11.1	18.9	20.0	11.1	13.7	8.4	19.5	23.2	53.6	40.7	77.9	46.8	38.2
	3 文京・南部	11.4	19.4	21.8	8.5	9.5	4.7	18.5	22.3	53.3	36.2	73.9	44.1	48.3
南	4 上川淵・下川淵	9.0	22.6	23.4	8.4	9.5	9.5	23.1	18.5	54.6	34.1	74.7	44.6	44.8
	10 永明	12.7	29.5	27.3	7.3	14.5	10.0	26.4	20.0	60.6	40.7	72.7	54.5	43.7
	11 城南	11.8	21.5	22.6	8.2	12.8	8.7	26.2	32.8	53.5	42.8	75.9	47.7	41.3
北	5 芳賀	14.8	23.1	25.0	13.9	10.2	4.6	29.6	20.4	48.6	35.4	68.5	50.9	40.5
	9 南橋	10.8	20.6	22.0	7.3	11.7	8.7	19.0	19.2	49.9	34.3	73.7	46.6	43.1
	15 富士見	10.6	16.1	21.1	7.5	11.6	9.0	24.1	18.6	49.3	38.2	72.4	46.7	41.9
東	6 桂萱	11.2	21.2	24.3	9.3	12.0	9.7	22.4	23.2	52.9	30.1	75.3	49.0	47.0
	12 大胡	6.3	21.5	19.6	5.7	8.2	7.0	22.8	14.6	58.8	36.9	67.7	39.2	39.9
	13 宮城	17.3	17.3	21.3	5.3	16.0	6.7	22.7	28.0	48.7	34.7	72.0	41.3	40.4
	14 粕川	11.8	17.6	16.8	6.7	14.3	9.2	19.3	23.5	58.5	43.3	73.1	40.3	43.7
西	7 東	13.1	23.5	31.0	9.0	14.6	9.3	26.5	21.3	58.5	38.6	74.6	53.7	42.6
	8 元総社・総社・清里	12.1	21.6	23.1	11.4	10.6	6.1	25.4	23.5	46.5	37.4	73.1	48.9	43.2

①介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

まとめ②



ブロック/日常生活圏域	現状・ニーズ
中央ブロック 01・北部・中部 02・若宮・城東・中川 03・文京・南部	<ul style="list-style-type: none"> ・単身世帯の割合が高く、介護が必要でも、サービスの利用に結びついていないため、単身世帯等への生活支援の強化が必要。 ・グループ等の活動量の多い圏域を中心に、主観的健康感が高い。今後参加希望はあるが活動できていない人の参加を促し、介護予防活動につなげていくことが必要である。
南ブロック 04・上川淵・下川淵 10・永明 11・城南	<ul style="list-style-type: none"> ・IADLが低い傾向があり、運動器機能も低下している人が多いため、介護予防活動を推し進める必要がある。 ・グループ活動が盛んで、特に永明で活動への参加意向が高い。参加者としての参加意欲のある人は多いため、今後企画・立案に関わる人を増やしていくことも重要となる。
北ブロック 05・芳賀 09・南橋 15・富士見	<ul style="list-style-type: none"> ・経済的に苦しい人の割合が高い。 ・認知機能に不安がある人の割合は、比較的になくなってきている。 ・特に芳賀において町内会・自治会の活動が盛んなため、地域における支え合い・見守り活動の取組が期待できる。 ・男性における主観的幸福感が高い傾向がある。
東ブロック 06・桂萱 12・大胡 13・宮城 14・粕川	<ul style="list-style-type: none"> ・単身世帯の割合が低く、夫婦のみの世帯割合が高い。 ・咀嚼機能が低下している人が多く、自分の歯が20本以上ある人の割合も低いことから、口腔ケアを促す必要性がある。 ・IADLは特に大胡・粕川で低下がみられる。 ・大胡ではグループ活動が少ないものの、参加したいと回答した人は多いことから、通いの場を紹介する等、介護予防・いきがい活動を進めていくことが必要である。
西ブロック 07・東 08・元総社・総社・清里	<ul style="list-style-type: none"> ・東は地域活動が活発であり、閉じこもりリスクや認知機能リスクが低く、主観的幸福感が高い圏域となっている。 ・元総社・総社・清里は単身世帯が多く、経済的に苦しいと感じている人が多い上、認知機能に不安を抱える人の割合が高いため、単身世帯への介護予防活動を促進する必要がある。 ・ブロック全体では地域包括支援センターの認知度が低いため、更なる周知が必要である。